

様式第7号ア（認定を受けようとする課程を有する大学・学科等における教員養成の目標等に関する書類）

(1) 大学・学科の設置理念

①大学

日本大学学則第1章第1節に「目的及び使命」として、「本大学は、日本精神にもとづき、道統をたつとび憲章にしたがい、自主創造の気風をやしなひ、文化の進展をはかり、世界の平和と人類の福祉とに寄与することを目的とする。」、「本大学は、広く知識を世界に求めて、深遠な学術を研究し、心身ともに健全な文化人を育成することを使命とする。」と明示されている。この「目的及び使命」は、時代の推移に即応して数次の改定を経ているが、その淵源は、明治22年に創立された本学の前身である日本法律学校の設置主意書に求めることができる。そして、平成19年には、本学の新しい教育理念・目的を「自主創造」とすることを決定した。「自主創造」を教育理念・目的としたのは、学則の「目的及び使命」に謳われているほか、日本が成熟期を迎え、「自主創造」の気風に満ちた人材の育成が求められており、21世紀が「知の世紀」と強調され、その知は「積極的な知」つまり「自主創造の知」であり、グローバリゼーションに対応できる人材の要諦が「自主創造」であることによる。平成29年には、「自主創造」の教育理念を踏まえ、総合大学として育む人材像を「日本大学マインド」として明らかにするとともに、それを実現していくために学生が備えるべき能力や姿勢を「日本大学教育憲章」として制定した。本学の「目的及び使命」を理解し、教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者の育成を目指し、日々、教育研究活動を行っている。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

<生物資源科学部バイオサイエンス学科>

持続可能な社会の実現に向け、地球持続性・食資源・健康な生活等の課題の解決を図るためには、特定の分野に限定した教育ではなく、生物学、農学、薬学、医学などの分野の領域横断的な学修と思考が必要である。本学科では、生命及び生命現象に関する幅広い領域を包含するバイオサイエンス分野の真理探究と課題解決の能力を備え、新たな産業創出による国際的な諸課題の解決と健康で活力ある社会の実現を担う、優れた人材育成に取り組む。

<生物資源科学部海洋生物学科>

海洋生物学科では、海洋環境と人間の共生を目指し、海洋生物の飼育展示や生理・生態・育成・利用並びに海洋環境の保全等について、現場やフィールドで実施する実験や実習、研究活動を通して学修する。これらの教育・研究活動を通じ、幅広い教養と社会全体を見渡せる総合的判断力を養い、海洋生物及びその環境の保全と人類の豊かな生活の調和を創造でき、かつ国際的にも通用する人材を養成する。

<生物資源科学部森林学科>

世界的に環境の悪化が深刻になる中で、安心して暮らせる環境を実現させるためには、健全な森林を育成すると同時に、木質バイオマスの循環利用や森林の空間的活用など、森林の多様な働きを活かしつつ再生可能な森林資源を有効に活用する新たな仕組み作りが不可欠である。そのため、森林生態や森林管理、森林資源に関する専門知識を有し、持続可能な社会の実現に向けて課題を主体的に解決できる能力、スキル、知識を持つ優れた人材を養成する。

<生物資源科学部環境学科>

自然のシステムを活用し、自然環境と生活環境の創造とその応用技術を多面的に学修することを基本とし、地球環境や地域環境、生態系と調和した計画が創造できる人材やバイオマスエネルギー開発など生物環境を科学的な観点から考察して、環境条件を持続させながら都市や社会を発展させることが創造できる人材を養成する。

<生物資源科学部アグリサイエンス学科>

生命現象の科学的な理解から先端農業やビジネスへの展開まで、農業の基礎から応用まで学ぶための教育を行い、研究面においては、高品質農産物生産とブランド化に関する先端研究を行う。教育・研究を通じ、高品質農産物生産・アグリビジネスに関する高い見識と展望を持ち、知的好奇心をもって課題を探究し解決する能力を有する社会に貢献できる人材を育成する。

<生物資源科学部食品開発学科>

食品開発学科は、食品創生分野、食品機能分野、食品安全分野を基軸として、食品開発の基盤となる基礎理論、食

品機能や栄養に基づく人の健康、衛生・分析技術に基づく安全管理をはじめとした食品創りに関わる科学的知識とそれらを応用できる能力を持ち、社会の変化に柔軟に対応できる新たな食の世界を創造しうる能力を有した優秀な人材の養成に取り組む。

<生物資源科学部国際共生学科>

様々な国際問題に積極的に取り組み、共生への高い志を持って国際社会で活躍できる人材を育成するため、本学科では、本学部の研究対象である生物資源とそれらを取り巻く文化・社会、環境、経済・ビジネスに関する教育・研究を行う。この教育・研究を通じ、生物資源と人との共生、生物資源の生産国・消費国との共生を図り、生物資源を国際的にマネジメントできる人材、また国際交流や国際平和に尽力できる人材を養成する。

<生物資源科学部獣医保健看護学科>

獣医保健看護学科では、獣医学ならびに動物看護学の分野を基盤とし、動物の健康維持・増進を図るとともに、ヒトの健康と福祉に貢献することのできる人材の育成を目的としている。本学科では、生命活動のメカニズムの探究、愛玩動物の診療の補助、愛護と適正な飼養、健康管理や疾病の予防・リハビリテーション、公衆衛生など、動物の世話や看護に必要な専門知識と技術を幅広く修得し、高い生命倫理観と豊かな人間性を備えた愛玩動物看護師として、獣医師と協働して実践的に活躍できる人材を養成する。

<文理学部教育学科>

人間が文化的生活を送り、社会を形成していく上で重要な役割を果たす「教育」は、重要であるからこそ難しく面白いものである。教育学は、哲学・歴史・社会学・心理学をはじめとする諸学問を「教育」という面から捉え、行政・学校・幼児教育・生涯学習・メディア教育など様々な研究分野を探索する学問である。教育学科では、教育について原理的かつ総合的に学習することにより、教職をはじめ多様な分野において活躍しうる人材の養成を目指している。研究については、教育に関する幅広い視野と問題意識をもつ多くの教員を擁し、各分野における最前線の研究活動を通じて、その成果を学生に還元する。

(2) 教員養成の目標・計画

①大学

【教員養成の目標】

本学の教育理念・目的である「自主創造」を踏まえて制定した「日本大学教育憲章」に鑑みたディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー及びアドミッション・ポリシーに基づき、総合大学としての特性を活かし、各学部・学科の教育研究上の目的に沿った専門性の高い人材の育成を行っている。これを踏まえ、21世紀の知識基盤型社会にふさわしい人材の育成を担う教員を養成し、教育界に多様な人材を豊富に輩出していくことで社会に貢献することを目標とする。

【目標達成のための計画】

本学が定めた教員養成の目標を達成するために、各学部・学科の教職課程において教職の専門性、教科の専門性を高めると共に、総合的に知識を学び、統合していく力をつける教育を実施する。現在の社会において求められているのは、知識の受容のみでなく、その知識を活用することで新しいものを創造する能力であり、あるいはその過程で育まれる思考力を高めていくことである。そのための学習指導・生徒指導を行うことができ、総合的で専門性も高く、21世紀型の知識基盤社会に適する教員を養成するための教育課程を編制し、実施する。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

【教員養成の目標】

<生物資源科学部バイオサイエンス学科>

バイオサイエンスの根幹である理科および農業に関する「確かな専門的知識と広く豊かな教養を身につけた教員」を育成するとともに、実験・実習を通じて「高度な専門性と豊かな経験を基盤としてより高い実践的指導力を発揮できる教員」を養成する。さらに演習等にて課題解決能力を涵養し、「中高校生の主体的・対話的な学びを支援し、社会で活躍する人材の育成を担う教員」としての資質と能力を身に付けることを目標とする。

<生物資源科学部海洋生物学科>

海洋生物と海洋環境を理解する基礎知識、海洋生物の多様性維持と持続可能な利用に必要な生物飼育に関する知識

と技術、および食品加工や水族館等の応用分野の専門知識など、海洋生物を食料資源および教育資源として効率的に利用するための科学知識の修得を通して、幅広い教養と社会全体を見渡せる総合的判断力と、海洋生物およびその環境の保全と人類の豊かな生活の調和を創造できる教員を養成する。

＜生物資源科学部森林学科＞

森林環境や森林資源に関する課題をさまざまな空間スケールで把握し、自然科学や社会科学など多様な視点から考えることができ、森林を活用した持続可能な社会の実現に貢献しようとする教員を養成する。特に、①森林生態系や生物多様性の保全、②森林の公益的機能、③森林バイオマス資源の有効利用、など森林が持っている多様な機能を理解し、様々な分野の人々と連携・協働しながら主体的にそれらの知識を社会に還元する意欲のある教員を養成する。

＜生物資源科学部環境学科＞

自然環境を中心に、地球環境から都市環境まで環境に関するあらゆる分野を対象にした学科である。自然環境では植生や植物に限らず、水圏や土壌圏の環境も研究対象にして、都市環境では緑豊かな都市環境の創造のみならず自然災害からの防災にも造詣の深い教員を養成する。

＜生物資源科学部アグリサイエンス学科＞

「植物性食資源」・「動物性食資源」・「フラワーサイエンス」の3つのコースを中心として「アグリサイエンス」を系統的に学ぶことができる。植物や動物の生命情報をITやAIを用いて解析、精査する科目を開講し、これらの情報をバイオテクノロジーと融合できる知識とスキルを身につけ、様々な教育の現場で活躍できる能力と知識、スキルを有する教員を養成する。

＜生物資源科学部食品開発学科＞

食品開発学科では、最先端の食品加工技術、ならびに食品の栄養・機能・おいしさ・安全などを実践的な教育を通して豊富な知識と技術を修得し、新たな食品を創造し持続可能な社会の実現を主導する人材の育成を目標としている。これらの教育・研究活動を通じ、様々な課題を主体的に解決できる能力、スキル、知識を持つ教員を養成する。

＜生物資源科学部国際共生学科＞

外国語コミュニケーション能力とデータ処理・分析能力を基盤的能力として身につけ、共生という視点から文化・歴史・地理・政治・経済・社会環境・自然環境・生物資源などに関する知識を修得する。また、国内外における諸問題の発見と分析、さらに解決へ向けて思考・行動ができる能力も養成する。これらを通して、共生の心をもって鳥瞰的に世界を見渡すことができる教員の養成を目標とする。

＜生物資源科学部獣医保健看護学科＞

愛玩動物看護師は、獣医療における飼い主と動物のインターフェースとなる要職であり、また、獣医師と協働することにより、動物愛護と福祉を社会へ普及発展させる使命がある。その使命遂行には、科学的に裏付けされた知識と技能、そして、社会に対しても優れたコミュニケーション能力が必要とされる。そのことから、当学科では単に教養と科学的知識、技能の修得だけでなく、高い倫理観、コミュニケーション能力、協調性、さらには優れたリーダーシップを備えた教員を養成することを目標とする。

＜文理学部教育学科＞

特別支援学校教員養成は免許教科（社会・公民）に係る中・高の教科専門性を有しつつ、特別支援教育に係る高い専門性も獲得した特別支援学校教諭免許状を取得した人材を日本の教育界に供給する。養成する教員像は、社会で活躍し、実践的な指導能力と様々な研究分野での学びを経て得た広い視野をもった教員であり、かつ共生社会の形成に向けた特別支援教育の取り組みを推し進めていくに相応しい人材の育成を担う教員を養成する。

【目標達成のための計画】

＜生物資源科学部バイオサイエンス学科、海洋生物学科、森林学科、環境学科、アグリサイエンス学科、食品開発学科、国際共生学科、獣医保健看護学科＞

- 1 教科に関する専門的事項や教育の基礎的理解に関する科目等に関する幅広い知識を有し、得意分野に関する知識を深めていくための教職課程カリキュラムの設置
- 2 学校現場で生じる問題や地域社会における課題を見出し、それについての適切な対応を考えることを可能とす

るケースワークやロールプレイを含む学習内容・方法の工夫

- 3 実践をとおして学び、自らの課題を明確にしてその克服をはかり、理論と実践を結びつけた学習ができるアクティブ・ラーニングの導入

<文理学部教育学科>

- 1 教育学を中心とした学問を基盤として実践的な指導力を身につける学科専門科目の設置・履修
 - 2 特別支援教育の対象幼児児童生徒のみならず、特別な教育的ニーズを有する幼児児童生徒に対する支援方法等を身につける特別ニーズ教育関連科目の設置・履修
 - 3 特別支援学校、特別支援学級等でのアクティブ・ラーニング形式での実地学習機会の設定
- (3) 認定を受けようとする課程の設置趣旨(学科等ごとに校種・免許教科別に記載)

<生物資源科学部バイオサイエンス学科>

・中一種免(理科)

「中学生の理科離れ」の解消を図るには、国際的な諸問題の解決や持続可能な社会の実現に寄与するバイオサイエンスに関する幅広い知識を有し、理科の面白さを伝えることのできる教員を養成する必要がある。この目標達成のため、専門基礎科目である分子生物学、有機化学、ケミカルバイオロジー、微生物遺伝学など広範な化学及び生物学の科目を修得させ、演習で主体的かつ協働的に課題を解決する能力を身に付けさせる。

・高一種免(理科)

高校の理科教員は高度な専門性が求められることから、「栄養・健康科学」、「発酵・ケミカルバイオロジー」及び「微生物・植物」の3分野を中心とした幅広い生命現象に関する専門的な知識と倫理観を修得させる。さらに「生物学」および「化学」を基盤とした専門実験を通して、高度な技術と技能を養成し、演習で主体的かつ協働的に課題を解決する能力を身に付けさせる。

・高一種免(農業)

農業は農作物を生産するだけでなく、「食と健康」や「植物や微生物の産業利用」などバイオサイエンスの観点からも農業の魅力や必要性を伝えることのできる農業科教員となることを期待している。この目標を達成するため、専門科目では「植物」、「微生物」、「バイオマス」、「健康」を中心とした科目を修得させ、幅広い専門的知識を養成する。さらに、演習にて主体的かつ協働的に課題を解決する能力を身に付けさせる。

<生物資源科学部海洋生物学科>

海洋生物学科では、理科を学問基盤とし、海洋生物学及び水産学を学修するため、中学校及び高等学校理科及び高等学校水産科の教員養成に相応しいカリキュラム編成となっている。

・中一種免(理科)

「中学生の理科離れ」の解消を図り、持続可能な社会の実現に寄与する幅広い知識を有し、理科の面白さを伝えることのできる教員を養成する。

・高一種免(理科)

理科の基礎力及び応用力を兼ね備え、将来の理学・農学を支える人材の育成を担う応用力のある理科教員を養成する。

・高一種免(水産)

持続可能な発展が求められる社会を支えるに相応しい人材の育成を担う水産教員を養成する。

<生物資源科学部森林学科>

・中一種免(理科)

教科に関する専門的事項のほか、理科関連科目として、学科の選択科目に森林基礎工学・木材構造利用学・森林基礎材料学などの物理学系科目、森林資源成分学・森林基礎成分学などの化学系科目、森林植物学・森林動物学・森林昆虫学などの生物学系科目、森林気象学・森林土壌学などの地学系科目を配し、理科の基礎力と実践力を兼ね備え、将来の科学分野を支える人材の育成を担う能力のある中学理科教員を養成する。

・高一種免(理科)

教科に関する専門的事項のほか、理科関連科目として、学科の選択科目に森林基礎工学・木材構造利用学・森林基礎材料学などの物理学系科目、森林資源成分学・森林基礎成分学などの化学系科目、森林植物学・森林動物学・森林昆虫学などの生物学系科目、森林気象学・森林土壌学などの地学系科目を配し、理科の基礎力と実践力を兼ね備え、将来の科学分野を支える人材の育成を担う能力のある高等学校理科教員を養成する。

・高一種免（農業）

教科に関する専門的事項のほか、農業関連科目として、森林概論・実践森林学・森林管理学などの森林全般、樹木医概論・森林育成学などの森林育成関係、森林アメニティ論・森林ビジネス論などの森林利用関係、森林バイオマス生産学・バイオマス資源利用学などの資源利用関係など、林業及び農業に関する科目を広く履修し、農学の基礎力と実践力を兼ね備え、将来の農学分野を支える人材の育成を担う能力のある農業科教員の養成をする。

＜生物資源科学部環境学科＞

・中一種免（理科）

教科に関する専門的事項のほか、理科関連科目として、生態学・植生学・土壌循環学・環境微生物学など科学に関する科目を広く履修し、学生は科学の基礎から応用まで広範囲に修得できるように配慮している。さらに実践力を養うため、学位プログラムの必修科目として環境学基礎実験Ⅰ・Ⅱや環境計測学実習などの実験、実習科目を配置し、理科の基礎力と実践力を兼ね備え、将来の科学分野を支える人材の育成を担う能力のある教員の養成を使命とする。

・高一種免（理科）

教科に関する専門的事項のほか、理科関連科目として、生態学・植生学・土壌循環学など科学に関する科目を広く履修し、学生は科学の基礎から応用まで広範囲に修得できるように配慮している。さらに実践力を養うため、学位プログラムの必修科目として環境学基礎実験Ⅰ・Ⅱや環境計測学実習などを配置している。また、中学校で理科の基本を履修した生徒に対して理科の奥深さを探究することを指導できる教員の養成を目指し、理科の基礎力と実践力に加え、応用力を兼ね備え、将来の科学分野を支える人材の育成を担う能力のある教員の養成を使命とする。

＜生物資源科学部アグリサイエンス学科＞

・中一種免（理科）

教科に関する専門的事項のほか、理科関連科目として、学科科目に生化学・分子生物学・動物生理学など科学に関する科目を広く履修して、学生は科学の基礎から応用まで広範囲に修得できるように配慮している。さらに実践力を養うため、学位プログラムの必修科目としてアグリサイエンス基礎実験などの実験科目を配置し、理科の基礎力と実践力を兼ね備え、将来の科学分野を支える人材の育成を担う能力のある教員の養成を使命とする。

・高一種免（理科）

教科に関する専門的事項のほか、理科関連科目として、学科の科目に分子生物学・植物生理学・動物生理学など科学に関する科目を広く履修して、学生は科学の基礎から応用まで広範囲に修得できるように配慮し、さらに実践力を養うため、アグリサイエンス基礎実験などの実験科目を2年次、3年次などに配置している。また、中学校で理科の基本を履修した生徒に対して理科の奥深さを探究することを指導できる教員の養成を目指し、理科の基礎力と実践力からさらに応用力を兼ね備え、将来の科学分野を支える人材の育成を担う能力のある教員の養成を使命とする。

・高一種免（農業）

教科に関する専門的事項のほか、農学関連科目として、学科の科目に農業のすがた・産業動物管理学、フラワー園芸学Ⅰなど農業に関する科目を広く履修して、学生は科学の基礎から応用まで広範囲に修得できるように配慮している。さらに実践力を養うため、学位プログラムの必修科目としてブランド創生フィールドワークやアグリサイエンス実習Ⅰ・Ⅱなどの実習科目を配置し、農学の基礎力と実践力を兼ね備え、将来の農学分野を支える人材の育成を担う能力のある教員の養成を使命とする。

＜生物資源科学部食品開発学科＞

・中一種免（理科）

「中学生の理科離れ」の解消を図り、食品科学を基盤に持続可能な社会の実現に寄与する幅広い知識を有し、理科の

面白さを伝えることのできる教員を養成する課程を設置する。

- ・高一種免（理科）

化学、生物、物理を基盤学問とし、食品の製造、機能、分析、衛生といった食品開発に関わる専門科目を系統的に学習出来るカリキュラムを通じ、理科科目にかかる知識・能力に加えて、高い実践的な指導能力とコミュニケーション能力を備え、社会動向も理解した広い視野をもつ理科教員を養成する課程を設置する。

<生物資源科学部国際共生学科>

- ・中一種免（社会科）

共生という概念を学問の中心に据え、グローバルな視座から文化・歴史・地理・政治・経済・社会環境・自然環境・生物資源に関して学修することにより、免許教科に係る確かな知識と教育力を活用し、豊かな発想で社会の変化に柔軟に対応しながら課題解決に取り組むことができ、中学校での教育に貢献できる人材を育成する。

- ・高一種免（地理歴史科）

共生という概念を学問の中心に据え、グローバルな視座から文化・歴史・地理を深く学修することにより、免許教科に係る確かな知識と教育力を活用し、豊かな発想で社会の変化に柔軟に対応しながら課題解決に取り組むことができ、高等学校での教育に貢献できる人材を育成する。

- ・高一種免（公民科）

共生という概念を学問の中心に据え、グローバルな視座から政治・経済・社会環境に関して深く学修する。このことにより、免許教科（高一種（公民））に係る確かな知識と教育力を活用し、豊かな発想で社会の変化に柔軟に対応しながら課題解決に取り組むことができ、高等学校での教育に貢献できる人材を育成する。

<生物資源科学部獣医保健看護学科>

- ・中一種免（理科）

学位プログラムにおいて取得を目指す愛玩動物看護師は、獣医療における飼い主と動物のインターフェースとなる要職であり、優れたコミュニケーション能力が必要とされる。さらに動物薬理学、動物免疫学など動物医療に関する科目を中心に科学的知識、技能の修得を行うことにより「中学生の理科離れ」解消のための魅力ある授業展開ができる教員を養成したい。

- ・高一種免（理科）

学位プログラムにおいて取得を目指す愛玩動物看護師は、獣医療における飼い主と動物のインターフェースとなる要職であり、優れたコミュニケーション能力が必要とされる。さらに動物薬理学、動物免疫学など動物医療に関する科目を中心に科学的知識、技能の修得を行うことにより、高い倫理観、コミュニケーション能力、協調性、さらには優れたリーダーシップを備えた教員を養成したい。

<文理学部教育学科>

今日の特別支援教育においては特別支援学校中学部・高等部で担当教科に応じた基礎免許を取得している教員を採用、配置するため、中学校、高等学校教員養成を基盤とした教科教育に関する高い専門性を有する教員の養成の拡充が必須となっている。中学校、高等学校教員を目指す学生の多い本学科においては、教科教育の高い専門性を有した上で、特別支援教育に関する高い専門性も有する教員を養成する課程を設置する。

- ・特支一種免（知・肢・病）

教育学を学問基盤としつつ、「教育学の中核となる分野」の専門科目を中心とし、行政・学校・幼児教育・生涯学習・メディア教育・特別支援教育など、さまざまな研究分野を探究する学問領域の科目を配置している。この科目配置の中でから、知的障害児・肢体不自由児・病弱児の理解や教育課程、指導法の理解、習得に係る専門科目を系統的に学修することができるように科目を配置している。さらに発達障害に関する科目や特別ニーズ教育に関する科目、現場での実践的学びを設定した科目を設置しており、実践力を養うという学科教育の特色をもった教員養成に臨む。その結果、教育学科では、免許教科（社会・公民）に係る中・高の教科専門性を有しつつ、特別支援教育に係る高い専門性も獲得した特別支援学校教諭免許状を取得した教員、共生社会の形成に向けた特別支援教育の取り組みを推し進めていくに相応しい人材の育成を担う特別支援学校の教員を養成する。

I. 教職課程の運営に係る全学的組織及び各学科等の組織の状況

(1) 各組織の概要

①

組織名称：	学部長会議
目 的：	各学部の自主性を尊重し、かつ、その特性を理解し本大学の基本方針に基づいて、総合大学としての発展に寄与するものとする。
責 任 者：	学長
構成員（役職・人数）：	学長、短期大学部学長、副学長、学部長、通信教育部長、理事長、常務理事、常任幹事、各部局長 合計 35 名
運営方法：	原則毎月 2 回開催。学長が議長となり、本大学の教育・研究に関する重要事項並びに管理運営に関する諸事項について審議する。

②

組織名称：	学務委員会（本部）
目 的：	本大学の教学に関する基本方針に基づき、教育及び研究に関する重要事項について、審議答申する。
責 任 者：	副学長（学務担当）
構成員（役職・人数）：	副学長（学務担当）、学務部長、各学部長の推薦に基づき学長が委嘱した教授各 1 名、幹事 8 名 合計 28 名
運営方法：	原則毎月 1 回開催。副学長（学務担当）が委員長となり、本大学の教学事項について、報告・審議する。

③

組織名称：	教職課程専門委員会（本部）
目 的：	本大学における教職課程に関する重要事項について審議する。審議する事項は、教職課程認定に関する事項、教職課程の教育課程に関する事項、介護等等体験に関する事項、教育実習に関する事項など。
責 任 者：	教職課程専門委員会委員長
構成員（役職・人数）：	副学長（学務担当）が指名する委員長、各学部から推薦された教職課程担当教員、幹事 3 名 合計 14 名
運営方法：	原則毎月 1 回開催。本大学の教職課程に関する事項について、報告・審議する。

④

組織名称：	学務委員会（生物資源科学部）
目 的：	生物資源科学部における教学事項について審議する。
責 任 者：	学務担当（生物資源科学部）
構成員（役職・人数）：	委員長（学務担当）、副委員長（学部長が指名する者）、各学科及び一般教養から各 1 名、教職課程担当教員 1 名、教務課長及び幹事（教務課事務担当者） 合計 24 名
運営方法：	原則毎月 1 回開催。学務担当（生物資源科学部）が委員長となり、本学部の教学事項について、報告・審議する。

様式第7号イ

⑤

組織名称：	教職運営委員会（生物資源科学部）
目的：	生物資源科学部における教職課程に係る基本方針・重要事項について審議する。
責任者：	学務担当（生物資源科学部）
構成員（役職・人数）：	委員長（学務担当）、副委員長（学部長が指名する者）、各学科及び一般教養教員、教職課程担当教員、教務課長及び幹事（教務課事務担当者） 合計23名
運営方法：	学務担当（生物資源科学部）が委員長となり、必要に応じて招集、本学部の教職課程の重要事項について、報告・審議する。

⑥

組織名称：	学務委員会（文理学部）
目的：	文理学部における教育及び研究に関する重要事項について審議する。審議対象とする主たる事項は、教育課程及び履修方法等に係る学則に関する事項、教職課程に関する事項、授業・試験及び成績に関する事項、学籍及び卒業に関する事項、特待生に関する事項、科目等履修生・聴講生及び研究生に関する事項、教職課程及び教員免許状並びに各種資格に関する事項、その他委員会が必要と認める事項など。
責任者：	学務担当（文理学部）
構成員（役職・人数）：	委員長（学務担当）1名、副委員長1名、委員25名（各学科、総合文化研究室及びその他関連諸コース等から選出された専任教員24名、教務課長1名）、幹事4名 合計31名
運営方法：	原則毎月1回開催。文理学部の教学事項について、報告・審議する。

⑦

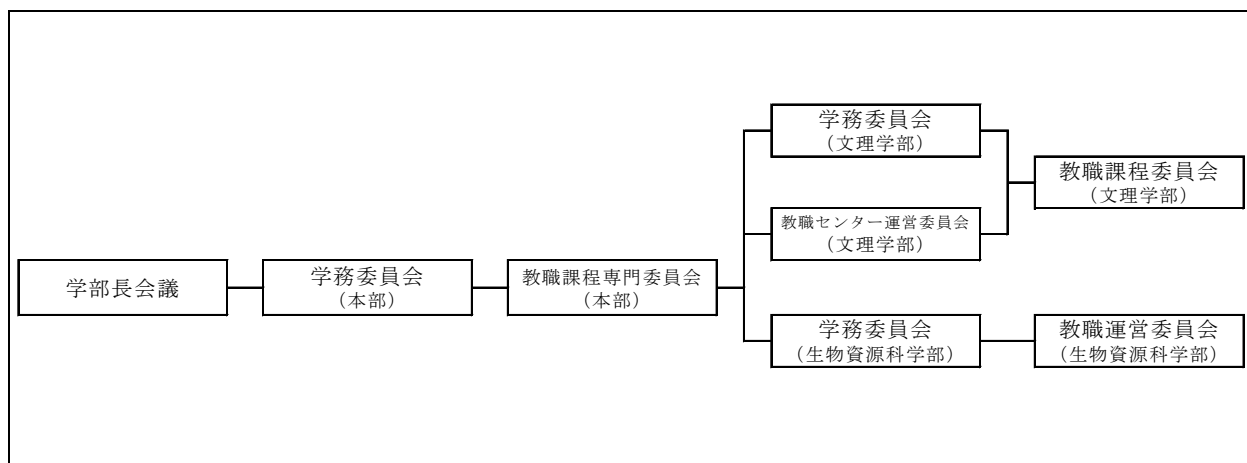
組織名称：	教職センター運営委員会（文理学部）
目的：	文理学部における教職を志望する学生および既卒者に対して、教員としての資質や能力、実践的指導力や即戦力を有した人材の育成に関して審議する。審議対象とする主たる事項は、教職支援事業に関する事項、教職ボランティア及び教職インターンシップ等学外教職教育支援に関する事項など。
責任者：	教職センター運営委員会委員長（文理学部）
構成員（役職・人数）：	委員長1名、副委員長4名、委員18名（各学科及び総合文化研究室から選出された専任教員7名、事務局4名、外部委員7名）、幹事7名 合計30名
運営方法：	不定期に開催。文理学部教職センターの運営に関する事項について、報告・審議する。

⑧

組織名称：	教職課程委員会（文理学部）
目的：	文理学部における教職課程に関する重要事項について審議する。審議する事項は、教職課程認定に関する事項、教職課程の教育課程に関する事項、介護等等体験に関する事項、教育実習に関する事項など。
責任者：	教職課程委員会委員長（文理学部）
構成員（役職・人数）：	委員長1名、副委員長2名、委員21名（各学科及び総合文化研究室から選出された専任教員20名、教務課長1名）、幹事2名 合計26名

運営方法： 不定期に開催。文理学部の教職課程に関する事項について、報告・審議する。

(2) (1) で記載した個々の組織の関係図



Ⅱ. 都道府県及び市区町村教育委員会、学校、地域社会等との連携、協力に関する取組

(1) 教育委員会との人事交流・学校現場の意見聴取等

① 生物資源科学部

- ・神奈川県教育委員会が招集するスクールライフサポーター派遣事業連絡会議に参加し、ミーティングなどを通じて県内市町村（政令市を除く）の教育委員会担当者との交流、意見交換を行っている。
- ・神奈川県他各自治体の公立学校の現職教員又は退職教員に非常勤講師の依頼をするとともに、採用に係る個別指導及び履修相談の助言をもらっている。

② 文理学部

- ・東京都他各自治体の公立学校の教員（校長など）、文部科学省調査官及び付属学校教員に教育実習の事前指導の講師を依頼し、模擬授業及び指導案の作成等の指導をいただいている。
- ・教育委員会の担当者を招き、各自治体で実施される採用試験について説明会を実施している。

(2) 学校現場における体験活動・ボランティア活動等

① 生物資源科学部

取組名称：	スクールライフサポーター
連携先との調整方法：	活動内容、日程等の詳細は派遣される予定の学校と学生とで調整する。
具体的な内容：	将来教育に関わろうとする大学生等をスクールライフサポーターとして、神奈川県内の公立小・中学校に派遣する事業。 大学及び神奈川県内市町村(政令市を除く)教育委員会と神奈川県教育委員会が協定を締結し、県は大学と市町村の窓口として学生等の募集等を実施

② 文理学部

取組名称：	教職インターンシップ
連携先との調整方法：	連携学校の担当教員と本学部教員が連携し、スケジュールやプログラムの内容を調整している。

具体的な内容： 教員採用試験に合格して、採用後も優れた教員として活躍する高度な職業人を育成するためのプログラム。文理学部ではユニークな教育活動を展開する私立聖パウロ学園高等学校エンカレッジコースと連携。この体制のもと、大学と高校の教員が一体となって学生指導にあたり、教科別の教育体験だけでは把握できない子どもたちの多面的な問題点を観察し、現在の学校が抱える困難をともに考えていこうとするもの。毎年度のはじめに募集掲示を出し、学部内でガイダンスを行い、セレクションを経て参加者を確定。

Ⅲ. 教職指導の状況

① 生物資源科学部

- 次に掲げるガイダンスや説明会を実施。
 - ・新年度当初に学年別のガイダンスを実施し、教員免許状取得までの進捗状況に合わせた履修指導を実施。
 - ・介護等体験の実施にあたり、事前ガイダンス及び神奈川県社会福祉協議会による講演を実施し、体験実施時の諸注意事項や実習の意義を説明。
 - ・教育実習の実習校選定前に担当教員による諸注意事項や実習の意義を説明。
 - ・教員免許申請手続に関する説明会を実施。
- 教職・学芸員課程支援センターを設置し、次のような支援体制を実施。
 - ・各学生個別に履修指導、助言、相談及び採用試験に関する指導等の対応を行っている

② 文理学部

- 次に掲げるガイダンスや説明会を実施。
 - ・新年度当初に学年ごとにガイダンスを実施し、学年ごとに当該年度で必要となる教職課程の履修、介護等体験、教育実習の事前・事後指導、教育実習等に関して説明。
 - ・介護等体験の実施の事前にガイダンスを実施し、体験に当たっての注意事項、書類の確認及び提出書類の説明。
- 教職センターを設置し、次のような支援体制を実施。
 - ・教職センタースタッフによる履修指導、助言及び各種相談の対応等を行っている。
 - ・教職センターの指導員として元公立学校校長が常駐し、教職についてのさまざまな疑問や質問に個別に対応。また、論作文の添削や模擬授業、面接などの実践的な指導も行い、教員採用試験合格のためのアドバイスをしている。
 - ・希望者には、教員採用試験対策（１次試験対策）として、外部の予備校による対策講座を学内で実施。
 - ・教員採用試験対策（主に２次試験）として、学内で対策講座を実施。主に２次試験における面接や模擬授業等の対策として年間３回実施。個別指導では実施することができない集団討論などの練習も行う。
 - ・教職センターで学部の近隣の小中学校を中心に、教職ボランティアを紹介し、希望者には、教職センターの指導員が学校と連携して学生を派遣。
 - ・外部識者を招いて、教員の仕事や、求められる資質・能力など、各学年に合わせたテーマの講演会・講座を開催。
 - ・教員志望者対象の学内・学外イベントや、全国からの教員求人について、情報提供を行い。学部生・大学院生・卒業生の希望者には、Webやメールで求人情報を配信。

様式第7号ウ

＜バイオサイエンス学科＞（認定課程：中一種免（理科））

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	＜教科に関する科目＞ ・教養科目の「生物学」および「自主創造の基礎」等を受講し、理科教員としての基礎となる知識と修得する。 ・バイオサイエンスと地球社会・産業との関わりを理解する。 ・専門科目のコア科目として、有機化学、分子生物学を受講し、専門基礎知識を養成する。 ＜教職に関する科目＞ ・教職に関する科目と教科の指導法に関して理解する。 ・教職課程に必要な知識や学習方法・技術等の基礎能力を修得する。
	後期	＜教科に関する科目＞ ・教養科目の「生物学」を受講し、理科教員としての基礎となる知識と修得する。 ・専門科目のコア科目として、生物の有機化学、ゲノム生物学を受講し、理科教科領域の専門性の知識を形成する。 ＜教職に関する科目＞ ・教職科目の「現代教職論」を受講し、教職の意義や教員の役割・職務内容等を理解する。 ・教育の理念・歴史・思想を理解する。 ・道德教育の意義や指導法を理解する。
2年次	前期	＜教科に関する科目＞ ・専門科目のコア科目として、生命とバイオの倫理を受講し、生命倫理に関する正しい知識を修得する。 ・専門基礎科目として、「DNAテクノロジー」、「微生物遺伝学」、「人体と生命の科学」、「分析化学」等を受講し、生命と生命現象の仕組みや本質を理解する。 ＜教職に関する科目＞ ・教職科目の「発達と学習」を受講し、生徒の心身発達や学習課程を理解する。 ・教育方法の理論を理解し、実践するための基盤を形成する。
	後期	＜教科に関する科目＞ ・専門科目にて、「栄養・健康」、「発酵・ケミカルバイオロジー」、「植物・微生物」に関する内容を幅広く学修し、理学的知識を深める。 ・専門実験実験を通して、理科教科領域の専門の技術や技能を養成する。 ＜教職に関する科目＞ ・教職科目の「教育相談」を受講し、教育相談の理論と方法を理解し、その修得を養う。 ・理科教育法について、学習指導の基礎理論、技術、学習指導の応用・技能等を修得する。
3年次	前期	＜教科に関する科目＞ ・専門科目での、「栄養・健康」、「発酵・ケミカルバイオロジー」、「植物・微生物」に関する講義および実験を通して、高度な専門的知識と技術を養成する。 ・演習での問題解決型学習および課題探究型学習を通して、主体的な学びを支援できる教員としての資質を養う。 ＜教職に関する科目＞ ・教育の社会的意義や課題を把握するとともに、特別活動の理論と方法を理解する。 ・理科教育法について、実践に則した学習指導の基礎理論、技術を身に付ける。
	後期	＜教科に関する科目＞ ・専門科目にて、より高度な専門的知識と技術を養成する。 ・演習での問題解決型学習および課題探究型学習を通して、主体的な学びを支援できる教員としての資質を高める。 ＜教職に関する科目＞ ・教職科目の「生徒指導・進路指導論」を受講し、生徒指導や進路指導の理論と方法を深く理解する。 ・理科教育法について、実践に則した学習指導の基礎理論、技術を身に付ける。
4年次	前期	＜教科に関する科目＞ ・「バイオサイエンス研究（卒業研究）」を遂行し、その過程において理解力、計画能力、技術力、探究力、考察力などの各種能力の向上に努める。 ＜教職に関する科目＞ ・理科教科の復習および授業計画となる学習指導案の作成とそれに基づいた模擬授業を行い、授業運営について理解を深める。 ・教育実習において、教職現場を体験するとともに教員として資質と能力を養成する。
	後期	＜教科に関する科目＞ ・「バイオサイエンス研究（卒業研究）」を遂行し、バイオサイエンスの理解と科学的知見、技能を向上させる。 ・研究成果とその考察を通して、バイオサイエンスがもたらす社会・産業への貢献や発展、国際的な諸問題の解決のための手段を見出すことのできる素養を会得する。 ＜教職に関する科目＞ ・教職として、自己課題を認識するとともに、知識や技能を補完する。また、教員としての使命および資質能力を自己点検する。

様式第7号ウ（教諭）

＜バイオサイエンス学科＞（認定課程：中一種免（理科））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等			教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第6条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	前期	2	B	教育原論	生物学概論Ⅰ		スポーツ科学	
					有機化学		情報科学	
					分子生物学			
	後期	2	C	現代教職論	生物学概論Ⅱ		日本国憲法	
		2	D	教育制度論	生物の有機化学		スポーツ実技Ⅰ	
					ゲノム生物学			
2年次	前期	2	E	発達と学習	物理学概論Ⅰ		英語ⅣA	
		2	F	特別支援教育概論	化学概論Ⅰ			
		3	H	道德教育の理論と方法	タンパク質と酵素の科学			
		3	QR	教育方法・ICT活用論	DNAテクノロジー			
					生命とバイオの倫理			
					微生物と植物実験Ⅰ			
	後期	2	G	教育課程論	物理学概論Ⅱ		英語ⅣB	
		3	IJ	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	化学概論Ⅱ			
		3	M	教育相談	生物学実験			
		1	A	理科教育法Ⅰ	ケミカルバイオロジー			
3年次	前期	1	A	理科教育法Ⅱ	病態生化学			
	後期	3	LN	生徒指導・進路指導論	化学実験			
		1	A	理科教育法Ⅲ				
		1	A	理科教育法Ⅳ				
4年次	前期	4		教育実習事前・事後指導	物理学実験			バイオサイエンス研究Ⅰ
		4		教育実習Ⅰ	地学概論Ⅰ			
	後期	4		教職実践演習（中・高）	地学概論Ⅱ			バイオサイエンス研究Ⅱ
					地学実験			

様式第7号ウ

＜バイオサイエンス学科＞（認定課程：高一種免（理科））

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	＜教科に関する科目＞ ・教養科目の「生物学」および「自主創造の基礎」等を受講し、理科教員としての基礎となる知識と修得する。 ・バイオサイエンスと地球社会・産業との関わりを理解する。 ・専門科目のコア科目として、有機化学、分子生物学を受講し、専門基礎知識を養成する。 ＜教職に関する科目＞ ・教職に関する科目と教科の指導法に関して理解する。 ・教職課程に必要な知識や学習方法・技術等の基礎能力を修得する。
	後期	＜教科に関する科目＞ ・教養科目の「生物学」を受講し、理科教員としての基礎となる知識と修得する。 ・専門科目のコア科目として、生物の有機化学、ゲノム生物学を受講し、理科教科領域の専門性の知識を形成する。 ＜教職に関する科目＞ ・教職科目の「現代教職論」を受講し、教職の意義や教員の役割・職務内容等を理解する。 ・教育の理念・歴史・思想を理解する。 ・道德教育の意義や指導法を理解する。
2年次	前期	＜教科に関する科目＞ ・生物、化学に関する実験を通して、理科教員としての基礎的技術を養う。 ・専門科目のコア科目として、生命とバイオの倫理を受講し、生命倫理に関する正しい知識を修得する。 ・専門基礎科目では、主に生物学および化学に関連した科目を受講し、生命と生命現象の仕組みや本質を理解する。 ＜教職に関する科目＞ ・教職科目の「発達と学習」を受講し、生徒の心身発達や学習課程を理解する。 ・教育方法の理論を理解し、実践するための基盤を形成する。
	後期	＜教科に関する科目＞ ・専門科目にて、「栄養・健康」、「発酵・ケミカルバイオロジー」、「植物・微生物」に関する内容を学修し、幅広い理知的知識を深める。 ・専門実験実験を通して、理科教科領域の専門性の高い技術や技能を養成する。 ＜教職に関する科目＞ ・教職科目の「教育相談」を受講し、教育相談の理論と方法を理解し、その修得を養う。 ・理科教育法について、学習指導の基礎理論、技術、学習指導の応用・技能等を修得する。
3年次	前期	＜教科に関する科目＞ ・専門科目での、「栄養・健康」、「発酵・ケミカルバイオロジー」、「植物・微生物」に関する講義および実験を通して、高度な専門的知識と技術を養成する。 ・演習での問題解決型学習および課題探究型学習を通して、主体的な学びを支援できる教員としての資質を養う。 ＜教職に関する科目＞ ・教育の社会的意義や課題を把握するとともに、特別活動の理論と方法を理解する。 ・理科教育法について、実践に則した学習指導の基礎理論、技術を身に付ける。
	後期	＜教科に関する科目＞ ・専門科目にて、より高度な専門的知識と技術を養成する。 ・演習での問題解決型学習および課題探究型学習を通して、主体的な学びを支援できる教員としての資質を高める。 ＜教職に関する科目＞ ・教職科目の「生徒指導・進路指導論」を受講し、生徒指導や進路指導の理論と方法を深く理解する。 ・理科教育法について、実践に則した学習指導の基礎理論、技術を身に付ける。
4年次	前期	＜教科に関する科目＞ ・「バイオサイエンス研究（卒業研究）」を遂行し、理科教員としての基礎から応用に至る技術を修得し、その過程において理解力、計画能力、技術力、探究力、考察力などの各種能力の向上に努める。 ＜教職に関する科目＞ ・理科教科の復習および授業計画となる学習指導案の作成とそれに基づいた模擬授業を行い、授業運営について理解を深める。 ・教育実習において、教職現場を体験するとともに教員として資質と能力を養成する。
	後期	＜教科に関する科目＞ ・「バイオサイエンス研究（卒業研究）」を遂行し、バイオサイエンスの理解と科学的知見、技能を向上させる。 ・研究成果とその考察を通して、バイオサイエンスがもたらす社会・産業への貢献や発展、国際的な諸問題の解決のための手段を見出すことのできる素養を会得する。 ＜教職に関する科目＞ ・教職として、自己課題を認識するとともに、知識や技能を補完する。また、教員としての使命および資質能力を自己点検する。

様式第7号ウ（教諭）

＜バイオサイエンス学科＞（認定課程：高一種免（理科））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等			教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第6条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	前期	2	B	教育原論	生物学概論Ⅰ		スポーツ科学	
					有機化学		情報科学	
					分子生物学			
	後期	2	C	現代教職論	生物学概論Ⅱ		日本国憲法	
		2	D	教育制度論	生物の有機化学		スポーツ実技Ⅰ	
					ゲノム生物学			
2年次	前期	2	E	発達と学習	物理学概論Ⅰ	道徳教育の理論と方法	英語ⅣA	
		2	F	特別支援教育概論	化学概論Ⅰ			
		3	QR	教育方法・ICT活用論	タンパク質と酵素の科学			
					DNAテクノロジー			
					生命とバイオの倫理			
					微生物と植物実験Ⅰ			
	後期	2	G	教育課程論	物理学概論Ⅱ		英語ⅣB	
		3	IJ	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	化学概論Ⅱ			
		3	M	教育相談	生物学実験			
		1	A	理科教育法Ⅰ	ケミカルバイオロジー			
3年次	前期	1	A	理科教育法Ⅱ	病態生化学			
	後期	3	LN	生徒指導・進路指導論	化学実験			
		1	A	理科教育法Ⅲ				
		1	A	理科教育法Ⅳ				
4年次	前期	4		教育実習事前・事後指導	物理学実験			バイオサイエンス研究Ⅰ
		4		教育実習Ⅱ	地学概論Ⅰ			
	後期	4		教職実践演習（中・高）	地学概論Ⅱ			バイオサイエンス研究Ⅱ
					地学実験			

様式第7号ウ

＜バイオサイエンス学科＞（認定課程：高一種免（農業））

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	＜教科に関する科目＞ ・教養科目および専門科目として農業の教科に関する科目を総合的に受講し、特に「生物」と「化学」の学問の重要性を理解する。 ・バイオサイエンス分野の基礎を幅広く学修することにより、農業科専門性の基礎知識を形成する。 ＜教職に関する科目＞ ・教職に関する科目と教科の指導法に関して理解する。 ・教職課程に必要な知識や学習方法・技術等の基礎能力を修得する。
	後期	＜教科に関する科目＞ ・専門共通コア科目では、「微生物学」を受講し、前期で受講した「細胞生物学」と併せて専門性の基礎を形成する。 ・「バイオサイエンス体験」での、自然環境や農業に関わる体験を通して自然や農業に果たす役割を理解するための素養を培う。 ＜教職に関する科目＞ ・教職科目の「現代教職論」を受講し、教職の意義や教員の役割・職務内容等を理解する。 ・教育の理念・歴史・思想を理解する。 ・道德教育の意義や指導法を理解する。
2年次	前期	＜教科に関する科目＞ ・生物、化学に関する実験を通して、農業科科教員としての基礎的技術を養う。 ・「栄養・健康」、「発酵・ケミカルバイオロジー」、「植物・微生物」に関する内容を幅広く学修し、生命と生命現象の仕組みや本質を理解する。 ＜教職に関する科目＞ ・教職科目の「発達と学習」を受講し、生徒の心身発達や学習課程を理解する。 ・教育方法の理論を理解し、実践するための基盤を形成する。
	後期	＜教科に関する科目＞ ・専門科目にて、「栄養・健康」、「発酵・ケミカルバイオロジー」、「植物・微生物」に関する内容を学修し、農業や環境に関わる生命科学的知識を深める。 ・専門実験実験を通して、農業科領域の専門性の高い技術や技能を養成する。 ＜教職に関する科目＞ ・教職科目の「教育相談」を受講し、教育相談の理論と方法を理解し、その修得を養う。 ・理科教育法について、学習指導の基礎理論、技術、学習指導の応用・技能等を修得する。
3年次	前期	＜教科に関する科目＞ ・農業科教員として必要な知識を深めるため、「植物」、「微生物」、「バイオマス」、「栄養」分野の科目を中心に受講するとともに、実験を通して、高度な専門的知識と技術を養成する。 ・演習での問題解決型学習および課題探究型学習を通して、主体的な学びを支援できる教員としての資質を養う。 ＜教職に関する科目＞ ・教育の社会的意義や課題を把握するとともに、特別活動の理論と方法を理解する。 ・農業科教育法について、実践に則した学習指導の基礎理論、技術を身に付ける。
	後期	＜教科に関する科目＞ ・専門科目にて、より高度な専門的知識と技術を養成する。 ・演習での問題解決型学習および課題探究型学習を通して、主体的な学びを支援できる教員としての資質を高める。 ＜教職に関する科目＞ ・教職科目の「生徒指導・進路指導論」を受講し、生徒指導や進路指導の理論と方法を深く理解する。 ・農業科教育法について、実践に則した学習指導の基礎理論、技術を身に付ける。
4年次	前期	＜教科に関する科目＞ ・「バイオサイエンス研究（卒業研究）」を遂行し、農業科教員としての基礎から応用に至る技術を修得し、その過程において理解力、計画能力、技術力、探究力、考察力などの各種能力の向上に努める。 ＜教職に関する科目＞ ・農業科教科の復習および授業計画となる学習指導案の作成とそれに基づいた模擬授業を行い、授業運営について理解を深める。 ・教育実習において、教職現場を体験するとともに教員として資質と能力を養成する。
	後期	＜教科に関する科目＞ ・「バイオサイエンス研究（卒業研究）」を遂行し、バイオサイエンスの理解と科学的知見、技能を向上させる。 ・研究成果とその考察を通して、バイオサイエンスがもたらす農業・環境への貢献や発展を考察するとともに、国際的な諸問題の解決のための手段を見出すことのできる素養を会得する。 ＜教職に関する科目＞ ・教職として、自己課題を認識するとともに、知識や技能を補完する。また、教員としての使命および資質能力を自己点検する。

様式第7号ウ（教諭）

＜バイオサイエンス学科＞（認定課程：高一種免（農業））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等			教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第6条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	前期	2	B	教育原論	生物資源科学概論		スポーツ科学	バイオサイエンス入門
					細胞生物学		情報科学	
	後期	2	C	現代教職論	微生物学		日本国憲法	バイオサイエンス概論
		2	D	教育制度論	バイオサイエンス体験		スポーツ実技 I	
2年次	前期	2	E	発達と学習	植物の細胞生理	道德教育の理論と方法	英語IVA	栄養科学
		2	F	特別支援教育概論				
		3	QR	教育方法・ICT活用論				
	後期	2	G	教育課程論	微生物生理学		英語IVB	分子栄養学
		3	IJ	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	食と健康科学			
		3	M	教育相談				
3年次	前期			職業指導	栄養機能学			
		1	A	農業科教育法 I	バイオマス発酵学			
					植物のシグナル伝達			
					植物免疫学			
					微生物機能利用学			
					植物と微生物の相互作用			
	後期	3	LN	生徒指導・進路指導論	植物の機能と制御			
				職業指導				
		1	A	農業科教育法 II				
4年次	前期	4		教育実習事前・事後指導				
		4		教育実習 II				
	後期	4		教職実践演習（中・高）				

様式第7号ウ

＜海洋生物学科＞（認定課程：中一種免（理科））

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	＜教科に関する科目＞ ・教養科目の「基礎生物学」および「自主創造の基礎」等を受講し、理科教員としての基礎となる知識と修得する。 ・海洋生物と海洋環境との関わりを理解する。 ・専門科目の「海洋基礎化学」、「海洋基礎生物」、「海洋基礎物理」等を受講し、専門基礎知識を養成する。 ＜教職に関する科目＞ ・教職に関する科目と教科の指導法に関して理解する。 ・教職課程に必要な知識や学習方法・技術等の基礎能力を修得する。
	後期	＜教科に関する科目＞ ・教養科目の「総合生物学」等を受講し、理科教員としての基礎となる知識と修得する。 ・専門科目の「海洋生物展示学」、「藻類学」等を受講し、理科教科領域の専門性の知識を形成する。 ＜教職に関する科目＞ ・教職科目の「現代教職論」を受講し、教職の意義や教員の役割・職務内容等を理解する。 ・教育の理念・歴史・思想を理解する。 ・道徳教育の意義や指導法を理解する。
2年次	前期	＜教科に関する科目＞ ・専門科目の「生化学」、「水族発生学」、「底生生物学」等を受講し、生命と生命現象の仕組みや本質を理解する。 ・専門実験を通して、理科教科領域の専門の技術や技能を養成する。 ＜教職に関する科目＞ ・教職科目の「発達と学習」を受講し、生徒の心身発達や学習課程を理解する。 ・教育方法の理論を理解し、実践するための基盤を形成する。
	後期	＜教科に関する科目＞ ・専門科目の「生物機能化学」、「生物有機化学」、「水産食品化学」等、幅広い分野の科目を学修し、理学的知識を深める。 ・専門実験を通して、理科教科領域の専門の技術や技能を養成する。 ＜教職に関する科目＞ ・教職科目の「教育相談」を受講し、教育相談の理論と方法を理解し、その修得を養う。 ・理科教育法について、学習指導の基礎理論、技術、学習指導の応用・技能等を修得する。
3年次	前期	＜教科に関する科目＞ ・専門科目の「栄養生理学」、「分析化学」等、幅広い分野の科目を学修し、高度な専門的知識を養成するとともに、実習を通して高度な専門的技術を養成する。 ・演習での問題解決型学習および課題探究型学習を通して、主体的な学びを支援できる教員としての資質を養う。 ＜教職に関する科目＞ ・教育の社会的意義や課題を把握するとともに、特別活動の理論と方法を理解する。 ・理科教育法について、実践に則した学習指導の基礎理論、技術を身に付ける。
	後期	＜教科に関する科目＞ ・専門科目および実習にて、より高度な専門的知識と技術を養成する。 ・演習での問題解決型学習および課題探究型学習を通して、主体的な学びを支援できる教員としての資質を高める。 ＜教職に関する科目＞ ・教職科目の「生徒指導・進路指導論」を受講し、生徒指導や進路指導の理論と方法を深く理解する。 ・理科教育法について、実践に則した学習指導の基礎理論、技術を身に付ける。
4年次	前期	＜教科に関する科目＞ ・「海洋生物研究（卒業研究）」を遂行し、その過程において理解力、計画能力、技術力、探究力、考察力などの各種能力の向上に努める。 ＜教職に関する科目＞ ・理科教科の復習および授業計画となる学習指導案の作成とそれに基づいた模擬授業を行い、授業運営について理解を深める。 ・教育実習において、教職現場を体験するとともに教員として資質と能力を養成する。
	後期	＜教科に関する科目＞ ・「海洋生物研究（卒業研究）」を遂行し、海洋生物とそれを取り巻く環境の理解と科学的知見、技能を向上させる。 ・研究成果とその考察を通して、海洋生物とそれを取り巻く環境がもたらす社会・産業への貢献や発展、国際的な諸問題の解決のための手段を見出すことのできる素養を会得する。 ＜教職に関する科目＞ ・教職として、自己課題を認識するとともに、知識や技能を補完する。また、教員としての使命および資質能力を自己点検する。

様式第7号ウ（教諭）

＜海洋生物学科＞（認定課程：中一種免（理科））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等			教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第6条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	前期	2	B	教育原論	生物学概論Ⅰ		スポーツ科学	
					海洋基礎化学		スポーツ実技Ⅰ	
					海洋基礎生物		情報科学	
	後期	2	C	現代教職論	生物学概論Ⅱ		日本国憲法	
		2	D	教育制度論	海洋生物展示学			
					藻類学			
2年次	前期	2	E	発達と学習	物理学概論Ⅰ		英語ⅣA	
		2	F	特別支援教育概論	化学概論Ⅰ			
		3	H	道德教育の理論と方法	生化学			
		3	QR	教育方法・ICT活用論				
	後期	2	G	教育課程論	物理学概論Ⅱ		英語ⅣB	
		3	IJ	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	化学概論Ⅱ			
		3	M	教育相談	生物学実験			
		1	A	理科教育法Ⅰ	生物機能化学			
					生物有機化学			
3年次	前期	1	A	理科教育法Ⅱ	分析化学			
					栄養生理学			
	後期	3	LN	生徒指導・進路指導論	化学実験			
		1	A	理科教育法Ⅲ				
		1	A	理科教育法Ⅳ				
4年次	前期	4		教育実習事前・事後指導	物理学実験			海洋生物学研究Ⅰ
		4		教育実習Ⅰ	地学概論Ⅰ			
	後期	4		教職実践演習（中・高）	地学概論Ⅱ			海洋生物学研究Ⅱ
					地学実験			

様式第7号ウ

＜海洋生物学科＞（認定課程：高一種免（理科））

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	＜教科に関する科目＞ ・教養科目の「基礎生物学」および「自主創造の基礎」等を受講し、理科教員としての基礎となる知識と修得する。 ・海洋生物と海洋環境との関わりを理解する。 ・専門科目の「海洋基礎化学」、「海洋基礎生物」、「海洋基礎物理」等を受講し、専門基礎知識を養成する。 ＜教職に関する科目＞ ・教職に関する科目と教科の指導法に関して理解する。 ・教職課程に必要な知識や学習方法・技術等の基礎能力を修得する。
	後期	＜教科に関する科目＞ ・教養科目の「総合生物学」等を受講し、理科教員としての基礎となる知識と修得する。 ・専門科目の「海洋生物展示学」、「藻類学」等を受講し、理科教科領域の専門性の知識を形成する。 ＜教職に関する科目＞ ・教職科目の「現代教職論」を受講し、教職の意義や教員の役割・職務内容等を理解する。 ・教育の理念・歴史・思想を理解する。 ・道徳教育の意義や指導法を理解する。
2年次	前期	＜教科に関する科目＞ ・専門科目の「生化学」、「水族発生学」、「底生生物学」等を受講し、生命と生命現象の仕組みや本質を理解する。 ・専門実験を通して、理科教科領域の専門の技術や技能を養成する。 ＜教職に関する科目＞ ・教職科目の「発達と学習」を受講し、生徒の心身発達や学習課程を理解する。 ・教育方法の理論を理解し、実践するための基盤を形成する。
	後期	＜教科に関する科目＞ ・専門科目の「生物機能化学」、「生物有機化学」、「水産食品化学」等、幅広い分野の科目を学修し、理学的知識を深める。 ・専門実験を通して、理科教科領域の専門の技術や技能を養成する。 ＜教職に関する科目＞ ・教職科目の「教育相談」を受講し、教育相談の理論と方法を理解し、その修得を養う。 ・理科教育法について、学習指導の基礎理論、技術、学習指導の応用・技能等を修得する。
3年次	前期	＜教科に関する科目＞ ・専門科目の「栄養生理学」、「分析化学」等、幅広い分野の科目を学修し、高度な専門的知識を養成するとともに、実習を通して高度な専門的技術を養成する。 ・演習での問題解決型学習および課題探究型学習を通して、主体的な学びを支援できる教員としての資質を養う。 ＜教職に関する科目＞ ・教育の社会的意義や課題を把握するとともに、特別活動の理論と方法を理解する。 ・理科教育法について、実践に則した学習指導の基礎理論、技術を身に付ける。
	後期	＜教科に関する科目＞ ・専門科目および実習にて、より高度な専門的知識と技術を養成する。 ・演習での問題解決型学習および課題探究型学習を通して、主体的な学びを支援できる教員としての資質を高める。 ＜教職に関する科目＞ ・教職科目の「生徒指導・進路指導論」を受講し、生徒指導や進路指導の理論と方法を深く理解する。 ・理科教育法について、実践に則した学習指導の基礎理論、技術を身に付ける。
4年次	前期	＜教科に関する科目＞ ・「海洋生物研究（卒業研究）」を遂行し、理科教員としての基礎から応用に至る技術を修得し、その過程において理解力、計画能力、技術力、探究力、考察力などの各種能力の向上に努める。 ＜教職に関する科目＞ ・理科教科の復習および授業計画となる学習指導案の作成とそれに基づいた模擬授業を行い、授業運営について理解を深める。 ・教育実習において、教職現場を体験するとともに教員として資質と能力を養成する。
	後期	＜教科に関する科目＞ ・「海洋生物研究（卒業研究）」を遂行し、海洋生物とそれを取り巻く環境の理解と科学的知見、技能を向上させる。 ・研究成果とその考察を通して、海洋生物とそれを取り巻く環境がもたらす社会・産業への貢献や発展、国際的な諸問題の解決のための手段を見出すことのできる素養を会得する。 ＜教職に関する科目＞ ・教職として、自己課題を認識するとともに、知識や技能を補完する。また、教員としての使命および資質能力を自己点検する。

様式第7号ウ（教諭）

＜海洋生物学科＞（認定課程：高一種免（理科））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等			教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第6条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	前期	2	B	教育原論	生物学概論Ⅰ		スポーツ科学	
					海洋基礎化学		スポーツ実技Ⅰ	
					海洋基礎生物		情報科学	
	後期	2	C	現代教職論	生物学概論Ⅱ		日本国憲法	
		2	D	教育制度論	海洋生物展示学			
					藻類学			
2年次	前期	2	E	発達と学習	物理学概論Ⅰ	道德教育の理論と方法	英語ⅣA	
		2	F	特別支援教育概論	化学概論Ⅰ			
		3	QR	教育方法・ICT活用論	生化学			
	後期	2	G	教育課程論	物理学概論Ⅱ		英語ⅣB	
		3	IJ	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	化学概論Ⅱ			
		3	M	教育相談	生物学実験			
		1	A	理科教育法Ⅰ	生物機能化学			
					生物有機化学			
3年次	前期	1	A	理科教育法Ⅱ	分析化学			
					栄養生理学			
	後期	3	LN	生徒指導・進路指導論	化学実験			
		1	A	理科教育法Ⅲ				
		1	A	理科教育法Ⅳ				
4年次	前期	4		教育実習事前・事後指導	物理学実験			海洋生物学研究Ⅰ
		4		教育実習Ⅱ	地学概論Ⅰ			
	後期	4		教職実践演習（中・高）	地学概論Ⅱ			海洋生物学研究Ⅱ
					地学実験			

様式第7号ウ

＜海洋生物学科＞（認定課程：高一種免（水産））

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	＜教科に関する科目＞ ・教養科目および専門科目として水産の教科に関する科目を総合的に受講し、特に「生物」、「化学」および「物理」の学問の重要性を理解する。 ・「海洋基礎実習Ⅰ」での自然環境や水産業に関わる体験を通して、自然や水産業に果たす役割を理解するための素養を培う。 ＜教職に関する科目＞ ・教職に関する科目と教科の指導法に関して理解する。 ・教職課程に必要な知識や学習方法・技術等の基礎能力を修得する。
	後期	＜教科に関する科目＞ ・専門科目では、「無脊椎動物学」や「プランクトン学」等を受講し、専門性の基礎を形成する。 ・海洋生物分野の基礎を幅広く学修することにより、水産科専門性の基礎知識を形成する。 ＜教職に関する科目＞ ・教職科目の「現代教職論」を受講し、教職の意義や教員の役割・職務内容等を理解する。 ・教育の理念・歴史・思想を理解する。 ・道徳教育の意義や指導法を理解する。
2年次	前期	＜教科に関する科目＞ ・専門実験を通して、水産科教員としての基礎的技術を養う。 ・「小型船舶操縦法実習」、「水族生理学」、「水族生態学」等、幅広い分野を学修し、水産業に関わる技術やそこに関わる海洋生物の生命現象の仕組み、さらには環境との関わりを理解する。 ＜教職に関する科目＞ ・教職科目の「発達と学習」を受講し、生徒の心身発達や学習課程を理解する。 ・教育方法の理論を理解し、実践するための基盤を形成する。
	後期	＜教科に関する科目＞ ・専門科目の「生命科学」、「生産科学」、「利用科学」、「環境化学」各分野に関する内容を学修し、水産業や環境に関わる生命科学的知識を深める。 ・専門実験を通して、水産科領域の専門性の高い技術や技能を養成する。 ＜教職に関する科目＞ ・教職科目の「教育相談」を受講し、教育相談の理論と方法を理解し、その修得を養う。
3年次	前期	＜教科に関する科目＞ ・水産科教員として必要な知識を深めるため、「生命科学」、「生産科学」、「利用科学」、「環境化学」各分野の科目を幅広く受講するとともに、実習を通して高度な専門的知識と技術を養成する。 ・演習での問題解決型学習および課題探究型学習を通して、主体的な学びを支援できる教員としての資質を養う。 ＜教職に関する科目＞ ・教育の社会的意義や課題を把握するとともに、理論と方法を理解する。 ・水産科教育法について、実践に則した学習指導の基礎理論、技術を身に付ける。
	後期	＜教科に関する科目＞ ・専門科目および実習にて、より高度な専門的知識と技術を養成する。 ・演習での問題解決型学習および課題探究型学習を通して、主体的な学びを支援できる教員としての資質を高める。 ＜教職に関する科目＞ ・教職科目の「生徒指導・進路指導論」を受講し、生徒指導や進路指導の理論と方法を深く理解する。 ・水産科教育法について、実践に則した学習指導の基礎理論、技術を身に付ける。
4年次	前期	＜教科に関する科目＞ ・「海洋生物研究（卒業研究）」を遂行し、水産科教員としての基礎から応用に至る技術を修得し、その過程において理解力、計画能力、技術力、探究力、考察力などの各種能力の向上に努める。 ＜教職に関する科目＞ ・水産科教科の復習および授業計画となる学習指導案の作成とそれに基づいた模擬授業を行い、授業運営について理解を深める。 ・教育実習において、教職現場を体験するとともに教員として資質と能力を養成する。
	後期	＜教科に関する科目＞ ・「海洋生物研究（卒業研究）」を遂行し、海洋生物とそれを取り巻く環境の理解と科学的知見、技能を向上させる。 ・研究成果とその考察を通して、海洋生物とそれを取り巻く環境がもたらす水産業・環境への貢献や発展を考察するとともに、国際的な諸問題の解決のための手段を見出すことのできる素養を会得する。 ＜教職に関する科目＞ ・教職として、自己課題を認識するとともに、知識や技能を補完する。また、教員としての使命および資質能力を自己点検する。

様式第7号ウ（教諭）

＜海洋生物学科＞（認定課程：高一種免（水産））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等			教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第6条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	前期	2	B	教育原論	魚類学		スポーツ科学	
					海洋環境学		スポーツ実技Ⅰ	
					海洋基礎実習Ⅰ		情報科学	
					海洋生物学概論			
					生物資源科学概論			
	後期	2	C	現代教職論	無脊椎動物学		日本国憲法	海洋基礎実習Ⅱ
		2	D	教育制度論	プランクトン学			
					増養殖学			
2年次	前期	2	E	発達と学習	水産利用学	道德教育の理論と方法	英語ⅣA	
		2	F	特別支援教育概論	水産利用学実験			
		3	QR	教育方法・ICT活用論	水族生理学			
					水族生態学			
					生物機能化学実験			
					海洋環境学実験			
	後期	2	G	教育課程論	水産資源学		英語ⅣB	
		3	IJ	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	水族生理学実験			
		3	M	教育相談	水族生態学実験			
3年次	前期			職業指導	海洋生物学演習Ⅰ			
		1	A	水産科教育法Ⅰ	海洋生物学実習Ⅰ			
					食品加工学			
					魚類繁殖行動学			
					食品微生物学			
					海洋特別講義			
					遺伝育種学			
	後期	3	LN	生徒指導・進路指導論	海洋生物学演習Ⅱ			
				職業指導	海洋生物学実習Ⅱ			
		1	A	水産科教育法Ⅱ	食品衛生学			
					魚群行動学			
					水産経済学			
4年次	前期	4		教育実習事前・事後指導				海洋生物学研究Ⅰ
		4		教育実習Ⅱ				
	後期	4		教職実践演習（中・高）				海洋生物学研究Ⅱ

様式第7号ウ

<森林学科> (認定課程: 中一種免(理科))

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<教科に関する科目> ・教育従事者としての職能に関する基本的な姿勢を学ぶ ・森林植物学により理科の中の生物学の基礎を学ぶ <教職に関する科目> ・教育原論で教育の意義・目的、児童期・生徒期・青年期の成長・発達、日本の教育の歴史、教育に関する基本的事項を理解する。
	後期	<教科に関する科目> ・専門科目によって高度な理科教育を学び、理科教員となるべく基礎力、応用力を養う ・森林基礎材料学により理科の中の物理学分野の基礎力を養う ・森林基礎成分学により理科の中の化学分野の基礎力を養う <教職に関する科目> ・教職の意義、これからの時代に求められる教員の資質・能力、新しい教育課題と教員の役割等について学ぶことで、教職観を構築し教職に就く意識を高める。また、日本の教育制度の基本理念、学習指導要領の変遷、国・地方教育行政の基本理念等について理解する。
2年次	前期	<教科に関する科目> ・専門教科、共通実験教科による理科に関する応用力を養う ・森林気象学により理科の中の地学の応用力を養う ・森林基礎工学、森林資源材料学により理科の中の物理学の応用力を養う ・森林資源成分学により理科の中の化学の応用力を養う <教職に関する科目> ・教育方法の理論と歴史、基本原理、授業を構成する要素、主体的・対話的で深い学びの指導法、情報機器の活用等について学修し、学習指導案に反映できるようにする。また、生徒の心身の発達及び学習過程についての知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた指導を理解し、生徒の個別的教育ニーズに対して組織的に対応していくための支援方法を学修する。さらに、道徳教育の歴史・目標・内容及び指導法等を検討し、道徳教育を実践できる能力を育成する。
	後期	<教科に関する科目> ・専門教科、共通実験教科及びコース別実験科目による理科に関する実践力の養成 ・森林動物学、森林昆虫学で理科の中の生物学の応用力を養成 ・森林土壌学で理科の中の地学の応用力を養成 <教職に関する科目> ・教育課程の基本的概念を理解し、学習指導要領の改訂の意義と授業改善の在り方、授業実践とカリキュラムマネジメントとの関連を理解する。また、特別活動と総合的な学習の時間の意義・目標・内容、各教科・道徳との関連について理解し、指導に必要な能力を身に付ける。生徒指導に関しては、生徒の発達状況における心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識(カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む)を学修する。
3年次	前期	<教科に関する科目> ・実験科目により理科に関する実践力の更なる養成 ・森林生物多様性論により生物学の最新の解析手法や応用力を養う <教職に関する科目> ・生徒が主体的に学び、生きる力を身に付けるためにはどのような指導方法や単元構造が必要なのか具体的な方法や事例をあげて説明できる能力を修得する。また、学習指導案作成の意義を理解し、授業の流れを明確にして指導案を作成する。
	後期	<教科に関する科目> ・専門教科、実験科目、演習科目により理科に関する実践力の再構築 ・木材構造利用学により理科の物理学に関する最新の解析手法を修得して実践力を養う <教職に関する科目> ・理科指導に関してさらに深く学修するとともに、いじめや不登校問題に加えて、インターネットや性、児童虐待などの問題に対する理解を深め、生徒指導に必要な生徒の心身の発達過程・特徴について学修する。
4年次	前期	<教科に関する科目> ・卒業研究である森林学研究Ⅰを通して、これまで身に付けてきた生物、化学、物理、地学の基礎力や応用力を活用して研究を実施する能力を養う ・森林特別演習Ⅲでデータの取りまとめ方や科学的な思考能力を養う <教職に関する科目> ・教職課程を履修する学生が教育実習に参加するための基本要件を確認して、実習学生としてその責任を十分に果たし、実りある実習を実践できるように中学校教員としての基本を習得する。実際に教育実習を行うことにより、授業や学級経営、学校行事等の実際を体験的に学修し、教育実践の場への理解と教科指導・生徒指導等の実践的な指導力を身につける。教育実習後に自身の経験や実践を振り返り、目標に到達できたのかを評価する。

後期

＜教科に関する科目＞

・卒業研究である森林学研究Ⅱを通して、より高度な実践力を養い、理科教育に従事する者としての理念と資質を再確認する

・森林特別演習Ⅳを通して、理科教育に従事する者としての理念と資質を再確認する

＜教職に関する科目＞

・教職履修カルテにより教職課程の履修状況を把握し、教職の意義や教員の役割・責任を再確認する。また、教員の具体的な職務内容や学校の実態等についての理解、教科指導や生徒指導等に関する実践的指導力の定着、教員としての資質・能力を確認する。

様式第7号ウ（教諭）

＜森林学科＞（認定課程：中一種免（理科））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等			教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第6条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	前期	2	B	教育原論	生物学概論Ⅰ		スポーツ科学	
					森林植物学		スポーツ実技Ⅰ	
							情報科学	
	後期	2	C	現代教職論	生物学概論Ⅱ		日本国憲法	
		2	D	教育制度論	森林基礎材料学			
					森林基礎成分学			
					森林生態学			
					森林微生物学			
2年次	前期	2	E	発達と学習	物理学概論Ⅰ		英語ⅣA	
		2	F	特別支援教育概論	化学概論Ⅰ			
		3	H	道德教育の理論と方法	森林気象学			
		3	QR	教育方法・ICT活用論				
	後期	2	G	教育課程論	物理学概論Ⅱ		英語ⅣB	
		3	IJ	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	化学概論Ⅱ			
		3	M	教育相談	生物学実験			
		1	A	理科教育法Ⅰ				
3年次	前期	1	A	理科教育法Ⅱ	森林生物多様性論			森林特別演習Ⅰ
	後期	3	LN	生徒指導・進路指導論	化学実験			森林特別演習Ⅱ
		1	A	理科教育法Ⅲ	木材構造利用学			
		1	A	理科教育法Ⅳ				
4年次	前期	4		教育実習事前・事後指導	物理学実験			森林特別演習Ⅲ
		4		教育実習Ⅰ	地学概論Ⅰ			森林学研究Ⅰ
	後期	4		教職実践演習（中・高）	地学概論Ⅱ			森林特別演習Ⅳ
					地学実験			森林学研究Ⅱ

様式第7号ウ

<森林学科>(認定課程:高一種免(理科))

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<教科に関する科目> ・教育従事者としての職能に関する基本的な姿勢を学ぶ ・森林植物学により理科の中の生物学の基礎を学ぶ <教職に関する科目> ・教育原論で教育の意義・目的、児童期・生徒期・青年期の成長・発達、日本の教育の歴史、教育に関する基本的事項を理解する。
	後期	<教科に関する科目> ・専門科目高度な理科教育を学び、理科教員となるべく基礎力、応用力を養う ・森林基礎材料学により理科の中の物理学分野の基礎力を養う ・森林基礎成分学により理科の中の化学分野の基礎力を養う <教職に関する科目> ・教職の意義、これからの時代に求められる教員の資質・能力、新しい教育課題と教員の役割等について学ぶことで、教職観を構築し教職に就く意識を高める。また、日本の教育制度の基本理念、学習指導要領の変遷、国・地方教育行政の基本理念等について理解する。
2年次	前期	<教科に関する科目> ・専門教科、共通実験教科による理科に関する応用力を養う ・森林気象学により理科の中の地学の応用力を養う ・森林基礎工学、森林資源材料学により理科の中の物理学の応用力を養う ・森林資源成分学により理科の中の化学の応用力を養う <教職に関する科目> ・教育方法の理論と歴史、基本原理、授業を構成する要素、主体的・対話的で深い学びの指導法、情報機器の活用等について学修し、学習指導案に反映できるようにする。また、生徒の心身の発達及び学習過程についての知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた指導を理解し、生徒の個別的教育ニーズに対して組織的に対応していくための支援方法を学修する。さらに、道徳教育の歴史・目標・内容及び指導法等を検討し、道徳教育を実践できる能力を育成する。
	後期	<教科に関する科目> ・専門教科、共通実験教科及びコース別実験科目による理科に関する実践力の養成 ・森林動物学、森林昆虫学で理科の中の生物学の応用力を養成 ・森林土壌学で理科の中の地学の応用力を養成 <教職に関する科目> ・教育課程の基本的概念を理解し、学習指導要領の改訂の意義と授業改善の在り方、授業実践とカリキュラムマネジメントとの関連を理解する。また、特別活動と総合的な学習の時間の意義・目標・内容、各教科・道徳との関連について理解し、指導に必要な能力を身に付ける。生徒指導に関しては、生徒の発達状況における心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識(カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む)を学修する。
3年次	前期	<教科に関する科目> ・実験科目により理科に関する実践力の更なる養成 ・森林生物多様性論により生物学の最新の解析手法や応用力を養う <教職に関する科目> ・生徒が主体的に学び、生きる力を身に付けるためにはどのような指導方法や単元構造が必要なのか具体的な方法や事例をあげて説明できる能力を修得する。また、学習指導案作成の意義を理解し、授業の流れを明確にして指導案を作成する。
	後期	<教科に関する科目> ・専門教科、実験科目、演習科目により理科に関する実践力の再構築 ・木材構造利用学により理科の物理学に関する最新の解析手法を修得して実践力を養う <教職に関する科目> ・理科指導に関してさらに深く学修するとともに、いじめや不登校問題に加えて、インターネットや性、児童虐待などの問題に対する理解を深め、生徒指導に必要な生徒の心身の発達過程・特徴について学修する。
4年次	前期	<教科に関する科目> ・卒業研究である森林学研究Ⅰを通して、これまで身に付けてきた生物、化学、物理、地学の基礎力や応用力を活用して研究を実施する能力を養う ・森林特別演習Ⅲでデータの取りまとめ方や科学的な思考能力を養う <教職に関する科目> ・教職課程を履修する学生が教育実習に参加するための基本要件を確認して、実習学生としてその責任を十分に果たし、実りある実習を実践できるように中学校教員としての基本を習得する。実際に教育実習を行うことにより、授業や学級経営、学校行事等の実際を体験的に学修し、教育実践の場への理解と教科指導・生徒指導等の実践的な指導力を身につける。教育実習後に自身の経験や実践を振り返り、目標に到達できたのかを評価する。

後期	＜教科に関する科目＞ ・卒業研究である森林学研究Ⅱを通して、より高度な実践力を養い、理科教育に従事する者としての理念と資質を再確認する ・森林特別演習Ⅳを通して、理科教育に従事する者としての理念と資質を再確認する ＜教職に関する科目＞ ・教職履修カルテにより教職課程の履修状況を把握し、教職の意義や教員の役割・責任を再確認する。また、教員の具体的な職務内容や学校の実態等についての理解、教科指導や生徒指導等に関する実践的指導力の定着、教員としての資質・能力を確認する。
----	---

様式第7号ウ（教諭）

＜森林学科＞（認定課程：高一種免（理科））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等			教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第6条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	前期	2	B	教育原論	生物学概論Ⅰ		スポーツ科学	
					森林植物学		スポーツ実技Ⅰ	
							情報科学	
	後期	2	C	現代教職論	生物学概論Ⅱ		日本国憲法	
		2	D	教育制度論	森林基礎材料学			
					森林基礎成分学			
					森林生態学			
					森林微生物学			
2年次	前期	2	E	発達と学習	物理学概論Ⅰ	道德教育の理論と方法	英語ⅣA	
		2	F	特別支援教育概論	化学概論Ⅰ			
		3	QR	教育方法・ICT活用論	森林気象学			
	後期	2	G	教育課程論	物理学概論Ⅱ		英語ⅣB	
		3	IJ	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	化学概論Ⅱ			
		3	M	教育相談	生物学実験			
		1	A	理科教育法Ⅰ				
3年次	前期	1	A	理科教育法Ⅱ	森林生物多様性論			森林特別演習Ⅰ
	後期	3	LN	生徒指導・進路指導論	化学実験			森林特別演習Ⅱ
		1	A	理科教育法Ⅲ	木材構造利用学			
		1	A	理科教育法Ⅳ				
4年次	前期	4		教育実習事前・事後指導	物理学実験			森林特別演習Ⅲ
		4		教育実習Ⅱ	地学概論Ⅰ			森林学研究Ⅰ
	後期	4		教職実践演習（中・高）	地学概論Ⅱ			森林特別演習Ⅳ
					地学実験			森林学研究Ⅱ

様式第7号ウ

＜森林学科＞（認定課程：高一種免（農業））

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	＜教科に関する科目＞ ・教育従事者としての職能に関する基本的な姿勢を学ぶ ・生物資源科学概論により生物資源全般に関する概要について学ぶ ・森林管理学により農林業の管理手法の基礎を学ぶ ・森林概論Ⅰ、Ⅱ及び実践森林学により農林業のすがた、我が国や世界の農林業の動向の基礎を学ぶ ・実習科目で農林業の生産現場の基礎を学ぶ ＜教職に関する科目＞ ・教育原論で教育の意義・目的、児童期・生徒期・青年期の成長・発達、日本の教育の歴史、教育に関する基本的事項を理解する。
	後期	＜教科に関する科目＞ ・実習科目で農林業の生産現場の基礎を学び、そこから生産技術の応用を考える ・専門教科による農林業に関する基礎力の養成 ・森林基礎環境学により農林業の資源と環境に関する基礎力を養う ＜教職に関する科目＞ ・教職の意義、これからの時代に求められる教員の資質・能力、新しい教育課題と教員の役割等について学ぶことで、教職観を構築し教職に就く意識を高める。また、日本の教育制度の基本理念、学習指導要領の変遷、国・地方教育行政の基本理念等について理解する。
2年次	前期	＜教科に関する科目＞ ・森林育成学により農林業における育成技術について学ぶ ・森林環境教育論により農林業における環境教育に関する知識を養う ＜教職に関する科目＞ ・教育方法の理論と歴史、基本原理、授業を構成する要素、主体的・対話的で深い学びの指導法、情報機器の活用等について学修し、学習指導案に反映できるようにする。また、生徒の心身の発達及び学習過程についての知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた指導を理解し、生徒の個別的教育ニーズに対して組織的に対応していくための支援方法を学修する。さらに、道徳教育の歴史・目標・内容及び指導法等を検討し、道徳教育を実践できる能力を育成する。
	後期	＜教科に関する科目＞ ・森林バイオマス生産学により農林業における生産技術に関する基礎及び応用力を養う ・バイオマス資源利用学により農林業における生産物の利用技術の基礎及び応用力を養う ＜教職に関する科目＞ ・教育課程の基本的概念を理解し、学習指導要領の改訂の意義と授業改善の在り方、授業実践とカリキュラムマネジメントとの関連を理解する。また、特別活動と総合的な学習の時間の意義・目標・内容、各教科・道徳との関連について理解し、指導に必要な能力を身に付ける。生徒指導に関しては、生徒の発達状況における心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を学修する。
3年次	前期	＜教科に関する科目＞ ・実験科目、実習科目により農業に関する実践力の養成 ・森林病理学により農林業における病害に関する基礎及び横領力を養う ・森林アメニティ論により森林の新しい利用技術についての知識を高める ＜教職に関する科目＞ ・生徒が主体的に学び、生きる力を身に付けるためにはどのような指導方法や単元構造が必要なのか具体的な方法や事例をあげて説明できる能力を修得する。また、学習指導案作成の意義を理解し、授業の流れを明確にして指導案を作成する。
	後期	＜教科に関する科目＞ ・きのこ学によりきのこに関する総合的な知識と応用力を養成する ・森林ツーリズム論、森林ビジネス論においてビジネスとしての森林の活用に関する知識を養い、応用力を養成する ・森林空間情報学により農林業における計測技術に関する実践力を修得する ＜教職に関する科目＞ ・農業科指導に関してさらに深く学修するとともに、いじめや不登校問題に加えて、インターネットや性、児童虐待などの問題に対する理解を深め、生徒指導に必要な生徒の心身の発達過程・特徴について学修する。
4年次	前期	＜教科に関する科目＞ ・森林科学英語により農林業に関する専門的な英語力を養う ・樹木・木材保存学及び樹木医概論により木材や樹木の保存技術に関する実践力を身に付ける ・卒業研究である森林学研究Ⅰを通して、これまで身に付けてきた農学、林学、農林業に関する基礎力や応用力を活用して研究を実施する能力を養う ・森林特別演習Ⅲでデータの取りまとめ方や農学的な思考能力を養う ＜教職に関する科目＞ ・教職課程を履修する学生が教育実習に参加するための基本要件を確認して、実習学生としてその責任を十分に果たし、実りある実習を実践できるように高等学校教員としての基本を習得する。実際に教育実習を行うことにより、授業や学級経営、学校行事等の実際を体験的に学修し、教育実践の場への理解と教科指導・生徒指導等の実践的な指導力を身につける。教育実習後に自身の経験や実践を振り返り、目標に到達できたのかを評価する。

後期

＜教科に関する科目＞

・卒業研究である森林学研究Ⅱを通して、より高度な実践力を養い、農業教育に従事する者としての理念と資質を再確認する

・森林特別演習Ⅳを通して、農林業教育に従事する者としての理念と資質を再確認する

＜教職に関する科目＞

・教職履修カルテにより教職課程の履修状況を把握し、教職の意義や教員の役割・責任を再確認する。また、教員の具体的な職務内容や学校の実態等についての理解、教科指導や生徒指導等に関する実践的指導力の定着、教員としての資質・能力を確認する。

様式第7号ウ（教諭）

＜森林学科＞（認定課程：高一種免（農業））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等			教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	前期	2	B	教育原論	生物資源科学概論		スポーツ科学	森林基礎実習
					森林概論Ⅰ		スポーツ実技Ⅰ	
					森林概論Ⅱ		情報科学	
					実践森林学			
					森林管理学			
	後期	2	C	現代教職論	森林基礎環境学		日本国憲法	
		2	D	教育制度論				
2年次	前期	2	E	発達と学習	森林環境教育論	道德教育の理論と方法	英語ⅣA	森林政策学
		2	F	特別支援教育概論	森林計測学			
		3	QR	教育方法・ICT活用論	森林育成学			
	後期	2	G	教育課程論	森林測量学		英語ⅣB	
		3	IJ	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	森林バイオマス生産学			木造住宅論
		3	M	教育相談				
3年次	前期			職業指導	森林病理学			
		1	A	農業科教育法Ⅰ	森林アメニティ論			
	後期	3	LN	生徒指導・進路指導論	森林ツーリズム論			
				職業指導	森林空間情報学			
		1	A	農業科教育法Ⅱ	森林ビジネス論			
					きのこ学			
4年次	前期	4		教育実習事前・事後指導	森林科学英語			
		4		教育実習Ⅱ	樹木・木材保存学			
					樹木医概論			
	後期	4		教職実践演習（中・高）				

様式第7号ウ

<環境学科>(認定課程:中一種免(理科))

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<教科に関する科目> ・教育従事者としての職能に関する基本的な姿勢を学ぶ ・環境の法則で環境における様々な現象が物理学の基礎で開設できることを学ぶ ・環境学基礎実験Ⅰで理科に関する基礎力の養成 <教職に関する科目> 教育原論で教育の意義・目的、児童期・生徒期・青年期の成長・発達、日本の教育の歴史、教育に関する基本的事項を理解する。
	後期	<教科に関する科目> ・植生学や保全生物学で理科の中の生物分野の基礎力の養成 ・環境学基礎実験Ⅱで理科に関する応用力の養成 <教職に関する科目> 教職の意義、これからの時代に求められる教員の資質・能力、新しい教育課題と教員の役割等について検討することで、教職観を構築し教職に就く意識を高める。また、日本の教育制度の基本理念、学習指導要領の変遷、国・地方教育行政の基本理念等について理解する。
2年次	前期	<教科に関する科目> ・環境計測学で環境現象を物理的や化学的に測定する方法を修得する ・大気環境学で地学や物理学の基礎を修得する ・土壌科学分析や水質分析法で地学や化学の基礎を修得 <教職に関する科目> 教育方法の理論と歴史、基本原理、授業を構成する要素、主体的・対話的で深い学びの指導法、情報機器の活用等について学修し、学習指導案に反映できるようにする。また、生徒の心身の発達及び学習過程についての知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた指導を理解し、生徒の個別的教育ニーズに対して組織的に対応していくための支援方法を学修する。さらに、道徳教育の歴史・目標・内容及び指導法等を検討し、道徳教育を実践できる能力を育成する。
	後期	<教科に関する科目> ・気象学で気象現象における熱や力の流れを修得する ・土壌循環学で土壌での物質の変化において微生物のはたらきを修得 ・環境の材料と構造で様々な物質の力学的な視点を養い、応用力を高める <教職に関する科目> 生徒が主体的に学び、生きる力を身に付けるためにはどのような指導方法や単元構造が必要なのか具体的な方法や事例をあげて説明できる能力を修得する。また、学習指導案作成の意義を理解し、授業の流れを明確にして指導案を作成する。
3年次	前期	<教科に関する科目> ・地球温暖化対策で地球環境における熱や力の流れに関して応用力を高める ・環境微生物学で環境中の物質変化における微生物の役割を修得する <教職に関する科目> 生徒が主体的に学び、生きる力を身に付けるためにはどのような指導方法や単元構造が必要なのか具体的な方法や事例をあげて説明できる能力を修得する。また、学習指導案作成の意義を理解し、授業の流れを明確にして指導案を作成する。
	後期	<教科に関する科目> ・水圏生物学で水辺環境における生物学の基礎を修得する ・環境保全の施工と管理で環境物理学に関して応用力、実践力を高める <教職に関する科目> 理科指導に関してさらに深く学修するとともに、いじめや不登校問題に加えて、インターネットや性、児童虐待などの問題に対する理解を深め、生徒指導に必要な生徒の心身の発達過程・特徴について学修する。
4年次	前期	<教科に関する科目> ・環境学研究Ⅰを通して、これまで身に付けてきた生物、化学、物理、地学の基礎力や応用力を活用して研究を実施する能力を養う ・環境学演習Ⅲでデータの取りまとめ方や科学的な思考能力を養う <教職に関する科目> 教職課程を履修する学生が教育実習に参加するための基本要件を確認して、実習学生としてその責任を十分に果たし、実りある実習を実践できるように中学校教員としての基本を習得する。実際に教育実習を行うことにより、授業や学級経営、学校行事等の実際を体験的に学修し、教育実践の場への理解と教科指導・生徒指導等の実践的な指導力を身につける。教育実習後に自身の経験や実践を振り返り、目標に到達できたのかを評価する。
	後期	<教科に関する科目> ・環境学研究Ⅱを通して、より高度な実践力を養い、理科教育に従事する者としての理念と資質を再確認する ・環境学演習Ⅳを通して、理科教育に従事する者としての理念と資質を再確認する <教職に関する科目> 教職履修カルテにより教職課程の履修状況を把握し、教職の意義や教員の役割・責任を再確認する。また、教員の具体的な職務内容や学校の実態等についての理解、教科指導や生徒指導等に関する実践的指導力の定着、教員としての資質・能力を確認する。

様式第7号ウ（教諭）

＜環境学科＞（認定課程：中一種免（理科））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等			教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第6条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	前期	2	B	教育原論	生物学概論Ⅰ		スポーツ科学	環境学概論
					環境の法則		スポーツ実技Ⅰ	環境学基礎実験Ⅰ
					生態学		情報科学	
					地球環境学			
	後期	2	C	現代教職論	生物学概論Ⅱ		日本国憲法	環境学基礎実験Ⅱ
		2	D	教育制度論	植生学			生物圏水循環学
					保全生物学			都市環境学
2年次	前期	2	E	発達と学習	物理学概論Ⅰ		英語ⅣA	
		2	F	特別支援教育概論	化学概論Ⅰ			
		3	H	道德教育の理論と方法	環境計測学			
		3	QR	教育方法・ICT活用論	水質分析法			
					指標生物学			
					大気環境学			
					土壌科学分析			
	後期	2	G	教育課程論	物理学概論Ⅱ		英語ⅣB	環境アセスメント
		3	IJ	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	化学概論Ⅱ			環境計測学実習
		3	M	教育相談	生物学実験			
		1	A	理科教育法Ⅰ	気象学			
					土壌循環学			
3年次	前期	1	A	理科教育法Ⅱ	環境微生物学			環境修復学
					地球温暖化対策			環境学演習Ⅰ
	後期	3	LN	生徒指導・進路指導論	化学実験			環境学演習Ⅱ
		1	A	理科教育法Ⅲ	環境保全の施工と管理			
		1	A	理科教育法Ⅳ	水圏生物学			
4年次	前期	4		教育実習事前・事後指導	物理学実験			環境学演習Ⅲ
		4		教育実習Ⅰ	地学概論Ⅰ			環境学研究Ⅰ
	後期	4		教職実践演習（中・高）	地学概論Ⅱ			環境学演習Ⅳ
					地学実験			環境学研究Ⅱ

様式第7号ウ

<環境学科>(認定課程:高一種免(理科))

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<教科に関する科目> ・教育従事者としての職能に関する基本的な姿勢を学ぶ ・環境の法則で環境における様々な現象が物理学の基礎で開設できることを学ぶ ・環境学基礎実験Ⅰで理科に関する基礎力の養成 <教職に関する科目> 教育原論で教育の意義・目的、児童期・生徒期・青年期の成長・発達、日本の教育の歴史、教育に関する基本的事項を理解する。
	後期	<教科に関する科目> ・植生学や保全生物学で理科の中の生物分野の基礎力の養成 ・環境学基礎実験Ⅱで理科に関する応用力の養成 <教職に関する科目> 教職の意義、これからの時代に求められる教員の資質・能力、新しい教育課題と教員の役割等について検討することで、教職観を構築し教職に就く意識を高める。また、日本の教育制度の基本理念、学習指導要領の変遷、国・地方教育行政の基本理念等について理解する。
2年次	前期	<教科に関する科目> ・環境計測学で環境現象を物理的や化学的に測定する方法を修得する ・大気環境学で地学や物理学の基礎を修得する ・土壌科学分析や水質分析法で地学や化学の基礎を修得 <教職に関する科目> 教育方法の理論と歴史、基本原理、授業を構成する要素、主体的・対話的で深い学びの指導法、情報機器の活用等について学修し、学習指導案に反映できるようにする。また、生徒の心身の発達及び学習過程についての知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた指導を理解し、生徒の個別的教育ニーズに対して組織的に対応していくための支援方法を学修する。さらに、道德教育の歴史・目標・内容及び指導法等を検討し、道德教育を実践できる能力を育成する。
	後期	<教科に関する科目> ・気象学で気象現象における熱や力の流れを修得する ・土壌循環学で土壌での物質の変化において微生物のはたらきを修得 ・環境の材料と構造で様々な物質の力学的な視点を養い、応用力を高める <教職に関する科目> 教育課程の基本的概念を理解し、学習指導要領の改訂の意義と授業改善の在り方、授業実践とカリキュラムマネジメントとの関連を理解する。また、特別活動と総合的な学習の時間の意義・目標・内容、各教科・道德との関連について理解し、指導に必要な能力を身に付ける。生徒指導に関しては、生徒の発達状況における心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識(カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む)を学修する。
3年次	前期	<教科に関する科目> ・地球温暖化対策で地球環境における熱や力の流れに関して応用力を高める ・環境微生物学で環境中の物質変化における微生物の役割を修得する <教職に関する科目> 生徒が主体的に学び、生きる力を身に付けるためにはどのような指導方法や単元構造が必要なのか具体的な方法や事例をあげて説明できる能力を修得する。また、学習指導案作成の意義を理解し、授業の流れを明確にして指導案を作成する。
	後期	<教科に関する科目> ・水圏生物学で水辺環境における生物学の基礎を修得する ・環境保全の施工と管理で環境物理学に関して応用力、実践力を高める <教職に関する科目> 理科指導に関してさらに深く学修するとともに、いじめや不登校問題に加えて、インターネットや性、児童虐待などの問題に対する理解を深め、生徒指導に必要な生徒の心身の発達過程・特徴について学修する。
4年次	前期	<教科に関する科目> ・環境学研究Ⅰを通して、これまで身に付けてきた生物、化学、物理、地学の基礎力や応用力を活用して研究を実施する能力を養う ・環境学演習Ⅲでデータの取りまとめ方や科学的な思考能力を養う <教職に関する科目> 教職課程を履修する学生が教育実習に参加するための基本要件を確認して、実習学生としてその責任を十分に果たし、実りある実習を実践できるように高等学校教員としての基本を習得する。実際に教育実習を行うことにより、授業や学級経営、学校行事等の実際を体験的に学修し、教育実践の場への理解と教科指導・生徒指導等の実践的な指導力を身につける。教育実習後に自身の経験や実践を振り返り、目標に到達できたのかを評価する。

	後期	＜教科に関する科目＞ ・環境学研究Ⅱを通して、より高度な実践力を養い、理科教育に従事する者としての理念と資質を再確認する ・環境学演習Ⅳを通して、理科教育に従事する者としての理念と資質を再確認する ＜教職に関する科目＞ 教職履修カルテにより教職課程の履修状況を把握し、教職の意義や教員の役割・責任を再確認する。また、教員の具体的な職務内容や学校の実態等についての理解、教科指導や生徒指導等に関する実践的指導力の定着、教員としての資質・能力を確認する。
--	----	--

様式第7号ウ（教諭）

<環境学科>（認定課程：高一種免（理科））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等			教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第6条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	前期	2	B	教育原論	生物学概論Ⅰ		スポーツ科学	環境学概論
					環境の法則		スポーツ実技Ⅰ	環境学基礎実験Ⅰ
					生態学		情報科学	
					地球環境学			
	後期	2	C	現代教職論	生物学概論Ⅱ		日本国憲法	環境学基礎実験Ⅱ
		2	D	教育制度論	植生学			生物圏水循環学
					保全生物学			都市環境学
2年次	前期	2	E	発達と学習	物理学概論Ⅰ	道德教育の理論と方法	英語ⅣA	
		2	F	特別支援教育概論	化学概論Ⅰ			
		3	QR	教育方法・ICT活用論	環境計測学			
					水質分析法			
					指標生物学			
					大気環境学			
					土壌科学分析			
	後期	2	G	教育課程論	物理学概論Ⅱ		英語ⅣB	環境アセスメント
		3	IJ	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	化学概論Ⅱ			環境計測学実習
		3	M	教育相談	生物学実験			
		1	A	理科教育法Ⅰ	気象学			
					土壌循環学			
3年次	前期	1	A	理科教育法Ⅱ	環境微生物学			環境修復学
					地球温暖化対策			環境学演習Ⅰ
	後期	3	LN	生徒指導・進路指導論	化学実験			環境学演習Ⅱ
		1	A	理科教育法Ⅲ	環境保全の施工と管理			
		1	A	理科教育法Ⅳ	水圏生物学			
4年次	前期	4		教育実習事前・事後指導	物理学実験			環境学演習Ⅲ
		4		教育実習Ⅱ	地学概論Ⅰ			環境学研究Ⅰ
	後期	4		教職実践演習（中・高）	地学概論Ⅱ			環境学演習Ⅳ
					地学実験			環境学研究Ⅱ

様式第7号ウ

<アグリサイエンス学科> (認定課程: 中一種免(理科))

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<教科に関する科目> ・教育従事者としての職能に関する基本的な姿勢を学ぶ ・細胞・発生学で生物学の基礎を学ぶ ・生化学で化学の基礎を学ぶ <教職に関する科目> 教育原論で教育の意義・目的、児童期・生徒期・青年期の成長・発達、日本の教育の歴史、教育に関する基本的事項を理解する。
	後期	<教科に関する科目> ・分子生物学や遺伝学で理科の中の生物分野の基礎力の養成 ・専門科目高度な理科教育を学び、理科教員となるべく基礎力、応用力を養う <教職に関する科目> 教職の意義、これからの時代に求められる教員の資質・能力、新しい教育課題と教員の役割等について検討することで、教職観を構築し教職に就く意識を高める。また、日本の教育制度の基本理念、学習指導要領の変遷、国・地方教育行政の基本理念等について理解する。
2年次	前期	<教科に関する科目> ・専門教科、共通実験教科による理科に関する応用力の養成 <教職に関する科目> 教育方法の理論と歴史、基本原理、授業を構成する要素、主体的・対話的で深い学びの指導法、情報機器の活用等について学修し、学習指導案に反映できるようにする。また、生徒の心身の発達及び学習過程についての知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた指導を理解し、生徒の個別的教育ニーズに対して組織的に対応していくための支援方法を学修する。さらに、道徳教育の歴史・目標・内容及び指導法等を検討し、道徳教育を実践できる能力を育成する。
	後期	<教科に関する科目> ・専門教科、共通実験教科及びコース別実験科目による理科に関する実践力の養成 <教職に関する科目> 教育課程の基本的概念を理解し、学習指導要領の改訂の意義と授業改善の在り方、授業実践とカリキュラムマネジメントとの関連を理解する。また、特別活動と総合的な学習の時間の意義・目標・内容、各教科・道徳との関連について理解し、指導に必要な能力を身に付ける。生徒指導に関しては、生徒の発達状況における心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識(カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む)を学修する。
3年次	前期	<教科に関する科目> ・動物バイオテクノロジーにより生物学の最新の解析手法を学び、応用力を養う ・農業と環境により農地生態や自然生態を通して、生態学の基礎を学び、応用力を養う ・実験科目により理科に関する実践力の更なる養成 <教職に関する科目> 生徒が主体的に学び、生きる力を身に付けるためにはどのような指導方法や単元構造が必要なのか具体的な方法や事例をあげて説明できる能力を修得する。また、学習指導案作成の意義を理解し、授業の流れを明確にして指導案を作成する。
	後期	<教科に関する科目> ・生命情報科学により、生物学に関する最新の実験手法を修得して、実践力を養う ・専門教科、実験科目、演習科目により理科に関する実践力の再構築 <教職に関する科目> 理科指導に関してさらに深く学修するとともに、いじめや不登校問題に加えて、インターネットや性、児童虐待などの問題に対する理解を深め、生徒指導に必要な生徒の心身の発達過程・特徴について学修する。
4年次	前期	<教科に関する科目> ・卒業研究Ⅰを通して、これまで身に付けてきた生物、化学、物理、地学の基礎力や応用力を活用して研究を実施する能力を養う ・ゼミナールⅠでデータの取りまとめ方や科学的な思考能力を養う <教職に関する科目> 教職課程を履修する学生が教育実習に参加するための基本要件を確認して、実習学生としてその責任を十分に果たし、実りある実習を実践できるように中学校教員としての基本を習得する。実際に教育実習を行うことにより、授業や学級経営、学校行事等の実際を体験的に学修し、教育実践の場への理解と教科指導・生徒指導等の実践的な指導力を身につける。教育実習後に自身の経験や実践を振り返り、目標に到達できたのかを評価する。

後期	＜教科に関する科目＞ ・卒業研究Ⅱを通して、より高度な実践力を養い、理科教育に従事する者としての理念と資質を再確認する ・ゼミナールⅡを通して、理科教育に従事する者としての理念と資質を再確認する ＜教職に関する科目＞ 教職履修カルテにより教職課程の履修状況を把握し、教職の意義や教員の役割・責任を再確認する。また、教員の具体的な職務内容や学校の実態等についての理解、教科指導や生徒指導等に関する実践的指導力の定着、教員としての資質・能力を確認する。
----	--

様式第7号ウ（教諭）

＜アグリサイエンス学科＞（認定課程：中一種免（理科））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等			教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第6条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	前期	2	B	教育原論	生物学概論Ⅰ		スポーツ科学	
					生化学		情報科学	
					細胞・発生学			
	後期	2	C	現代教職論	生物学概論Ⅱ		日本国憲法	ブランド創生学
		2	D	教育制度論	分子生物学		スポーツ実技Ⅰ	
					遺伝学入門			
2年次	前期	2	E	発達と学習	物理学概論Ⅰ		英語ⅣA	アグリサイエンス基礎実験
		2	F	特別支援教育概論	化学概論Ⅰ			
		3	H	道德教育の理論と方法				
		3	QR	教育方法・ICT活用論				
	後期	2	G	教育課程論	物理学概論Ⅱ		英語ⅣB	
		3	IJ	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	化学概論Ⅱ			
		3	M	教育相談	生物学実験			
		1	A	理科教育法Ⅰ	アグリサイエンステクノロジー			
3年次	前期	1	A	理科教育法Ⅱ	動物バイオテクノロジー			生物統計学入門
					土壌・植物栄養学			アグリサイエンス演習Ⅰ
	後期	3	LN	生徒指導・進路指導論	化学実験			アグリサイエンス演習Ⅱ
		1	A	理科教育法Ⅲ				
		1	A	理科教育法Ⅳ				
4年次	前期	4		教育実習事前・事後指導	物理学実験			アグリサイエンス演習Ⅲ
		4		教育実習Ⅰ	地学概論Ⅰ			アグリサイエンス研究Ⅰ
	後期	4		教職実践演習(中・高)	地学概論Ⅱ			アグリサイエンス演習Ⅳ
					地学実験			アグリサイエンス研究Ⅱ

様式第7号ウ

＜アグリサイエンス学科＞（認定課程：高一種免（理科））

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	＜教科に関する科目＞ ・教育従事者としての職能に関する基本的な姿勢を学ぶ ・細胞・発生学で生物学の基礎を学ぶ ・生化学で化学の基礎を学ぶ ＜教職に関する科目＞ 教育原論で教育の意義・目的、児童期・生徒期・青年期の成長・発達、日本の教育の歴史、教育に関する基本的事項を理解する。
	後期	＜教科に関する科目＞ ・分子生物学や遺伝学で理科の中の生物分野の基礎力の養成 ・専門科目高度な理科教育を学び、理科教員となるべく基礎力、応用力を養う ＜教職に関する科目＞ 教職の意義、これからの時代に求められる教員の資質・能力、新しい教育課題と教員の役割等について検討することで、教職観を構築し教職に就く意識を高める。また、日本の教育制度の基本理念、学習指導要領の変遷、国・地方教育行政の基本理念等について理解する。
2年次	前期	＜教科に関する科目＞ ・専門教科、共通実験教科による理科に関する応用力の養成 ＜教職に関する科目＞ 教育方法の理論と歴史、基本原理、授業を構成する要素、主体的・対話的で深い学びの指導法、情報機器の活用等について学修し、学習指導案に反映できるようにする。また、生徒の心身の発達及び学習過程についての知識を身に付け、各発達段階における心理的特性を踏まえた指導を理解し、生徒の個別的教育ニーズに対して組織的に対応していくための支援方法を学修する。さらに、道徳教育の歴史・目標・内容及び指導法等を検討し、道徳教育を実践できる能力を育成する。
	後期	＜教科に関する科目＞ ・専門教科、共通実験教科及びコース別実験科目による理科に関する実践力の養成 ＜教職に関する科目＞ 教育課程の基本的概念を理解し、学習指導要領の改訂の意義と授業改善の在り方、授業実践とカリキュラムマネジメントとの関連を理解する。また、特別活動と総合的な学習の時間の意義・目標・内容、各教科・道徳との関連について理解し、指導に必要な能力を身に付ける。生徒指導に関しては、生徒の発達状況における心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を学修する。
3年次	前期	＜教科に関する科目＞ ・動物バイオテクノロジーにより生物学の最新の解析手法を学び、応用力を養う ・農業と環境により農地生態や自然生態を通して、生態学の基礎を学び、応用力を養う ・実験科目により理科に関する実践力の更なる養成 ＜教職に関する科目＞ 生徒が主体的に学び、生きる力を身に付けるためにはどのような指導方法や単元構成が必要なのか具体的な方法や事例をあげて説明できる能力を修得する。また、学習指導案作成の意義を理解し、授業の流れを明確にして指導案を作成する。
	後期	＜教科に関する科目＞ ・生命情報科学により、生物学に関する最新の実験手法を修得して、実践力を養う ・専門教科、実験科目、演習科目により理科に関する実践力の再構築 ＜教職に関する科目＞ 理科指導に関してさらに深く学修するとともに、いじめや不登校問題に加えて、インターネットや性、児童虐待などの問題に対する理解を深め、生徒指導に必要な生徒の心身の発達過程・特徴について学修する。
4年次	前期	＜教科に関する科目＞ ・卒業研究Ⅰを通して、これまで身に付けてきた生物、化学、物理、地学の基礎力や応用力を活用して研究を実施する能力を養う ・ゼミナールⅠでデータの取りまとめ方や科学的な思考能力を養う ＜教職に関する科目＞ 教職課程を履修する学生が教育実習に参加するための基本要件を確認して、実習学生としてその責任を十分に果たし、実りある実習を実践できるように高等学校教員としての基本を習得する。実際に教育実習を行うことにより、授業や学級経営、学校行事等の実際を体験的に学修し、教育実践の場への理解と教科指導・生徒指導等の実践的な指導力を身につける。教育実習後に自身の経験や実践を振り返り、目標に到達できたのかを評価する。

	後期	＜教科に関する科目＞ ・卒業研究Ⅱを通して、より高度な実践力を養い、理科教育に従事する者としての理念と資質を再確認する ・ゼミナールⅡを通して、理科教育に従事する者としての理念と資質を再確認する ＜教職に関する科目＞ 教職履修カルテにより教職課程の履修状況を把握し、教職の意義や教員の役割・責任を再確認する。また、教員の具体的な職務内容や学校の実態等についての理解、教科指導や生徒指導等に関する実践的指導力の定着、教員としての資質・能力を確認する。
--	----	--

様式第7号ウ（教諭）

＜アグリサイエンス学科＞（認定課程：高一種免（理科））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等			教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第6条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	前期	2	B	教育原論	生物学概論Ⅰ		スポーツ科学	
					生化学		情報科学	
					細胞・発生学			
	後期	2	C	現代教職論	生物学概論Ⅱ		日本国憲法	ブランド創生学
		2	D	教育制度論	分子生物学		スポーツ実技Ⅰ	
					遺伝学入門			
2年次	前期	2	E	発達と学習	物理学概論Ⅰ	道德教育の理論と方法	英語ⅣA	アグリサイエンス基礎実験
		2	F	特別支援教育概論	化学概論Ⅰ			
		3	QR	教育方法・ICT活用論				
	後期	2	G	教育課程論	物理学概論Ⅱ		英語ⅣB	
		3	IJ	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	化学概論Ⅱ			
		3	M	教育相談	生物学実験			
		1	A	理科教育法Ⅰ	アグリサイエンステクノロジー			
3年次	前期	1	A	理科教育法Ⅱ	動物バイオテクノロジー			生物統計学入門
					土壌・植物栄養学			アグリサイエンス演習Ⅰ
	後期	3	LN	生徒指導・進路指導論	化学実験			アグリサイエンス演習Ⅱ
		1	A	理科教育法Ⅲ				
		1	A	理科教育法Ⅳ				
4年次	前期	4		教育実習事前・事後指導	物理学実験			アグリサイエンス演習Ⅲ
		4		教育実習Ⅱ	地学概論Ⅰ			アグリサイエンス研究Ⅰ
	後期	4		教職実践演習（中・高）	地学概論Ⅱ			アグリサイエンス演習Ⅳ
					地学実験			アグリサイエンス研究Ⅱ

様式第7号ウ

<アグリサイエンス学科>(認定課程:高一種免(農業))

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<教科に関する科目> ・教育従事者としての職能に関する基本的な姿勢を学ぶ ・農業のすがたで我が国や世界の農業の動向の基礎を学ぶ ・実習科目で農畜産物の生産現場の基礎を学ぶ <教職に関する科目> 教育原論で教育の意義・目的、児童期・生徒期・青年期の成長・発達、日本の教育の歴史、教育に関する基本的事項を理解する
	後期	<教科に関する科目> ・農学や農業に関する基礎力を養う ・実習科目で農畜産物の生産現場の基礎を学び、そこから生産技術の応用を考える ・専門教科による農業に関する基礎力の養成 <教職に関する科目> 教職の意義、これからの時代に求められる教員の資質・能力、新しい教育課題と教員の役割等について検討することで、教職観を構築し教職に就く意識を高める。また、日本の教育制度の基本理念、学習指導要領の変遷、国・地方教育行政の基本理念等について理解する。
2年次	前期	<教科に関する科目> ・作物栽培学等で農畜産物生産の理論に関する基礎を養う ・アグリビジネス・マーケティング論で農畜産物の流通、市場販売に関する基礎を養う ・作物学、園芸学等農畜産物の基礎を養う <教職に関する科目> 教育方法の理論と歴史、基本原理、授業を構成する要素、主体的・対話的で深い学びの指導法、情報機器の活用等について学修し、学習指導案に反映できるようにする。また、生徒の心身の発達及び学習過程についての知識を身に付け、各発達段階における心理的特性を踏まえた指導を理解し、生徒の個別的教育ニーズに対して組織的に対応していくための支援方法を学修する。さらに、道徳教育の歴史・目標・内容及び指導法等を検討し、道徳教育を実践できる能力を育成する。
	後期	<教科に関する科目> ・品質のよい食品にするためにはどのような特質のある農畜産物が重要か修得することで作物生産や家畜飼育の応用力を養う ・植物、動物の生理を学び、応用力を養う ・家畜飼育の実践力を高める <教職に関する科目> 教育課程の基本的概念を理解し、学習指導要領の改訂の意義と授業改善の在り方、授業実践とカリキュラムマネジメントとの関連を理解する。また、特別活動と総合的な学習の時間の意義・目標・内容、各教科・道徳との関連について理解し、指導に必要な能力を身に付ける。生徒指導に関しては、生徒の発達状況における心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識(カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む)を学修する。
3年次	前期	<教科に関する科目> ・作物や野菜、花卉の生理現象を理解し、農業に関する応用力、実践力を高める ・家畜の生理現象を理解し、農業に関する応用力、実践力を高める ・実験科目、実習科目により農業に関する実践力の養成 <教職に関する科目> 生徒が主体的に学び、生きる力を身に付けるためにはどのような指導方法や単元構造が必要なのか具体的な方法や事例をあげて説明できる能力を修得する。また、学習指導案作成の意義を理解し、授業の流れを明確にして指導案を作成する。
	後期	<教科に関する科目> ・農業に関する最新の農業事情を学び、実践力を高める ・家畜飼育の実践力を高める ・花卉類の利用、装飾に関する実践力を高める <教職に関する科目> 農業科指導に関してさらに深く学修するとともに、いじめや不登校問題に加えて、インターネットや性、児童虐待などの問題に対する理解を深め、生徒指導に必要な生徒の心身の発達過程・特徴について学修する。
4年次	前期	<教科に関する科目> ・卒業研究Ⅰを通して、これまで身に付けてきた農業、農学の基礎力や応用力を活用して研究を実施する能力を養う ・ゼミナールⅠでデータの取りまとめ方や農学的な思考能力を養う <教職に関する科目> 教職課程を履修する学生が教育実習に参加するための基本要件を確認して、実習学生としてその責任を十分に果たし、実りある実習を実践できるように高等学校教員としての基本を習得する。実際に教育実習を行うことにより、授業や学級経営、学校行事等の実際を体験的に学修し、教育実践の場への理解と教科指導・生徒指導等の実践的な指導力を身に付ける。教育実習後に自身の経験や実践を振り返り、目標に到達できたのかを評価する。

後期	＜教科に関する科目＞ ・卒業研究Ⅱを通して、より高度な実践力を養い、農業教育に従事する者としての理念と資質を再確認する ・ゼミナールⅡを通して、農業教育に従事する者としての理念と資質を再確認する ＜教職に関する科目＞ 教職履修カルテにより教職課程の履修状況を把握し、教職の意義や教員の役割・責任を再確認する。また、教員の具体的な職務内容や学校の実態等についての理解、教科指導や生徒指導等に関する実践的指導力の定着、教員としての資質・能力を確認する。
----	---

様式第7号ウ（教諭）

＜アグリサイエンス学科＞（認定課程：高一種免（農業））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等			教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第6条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	前期	2	B	教育原論	農業のすがた		スポーツ科学	
					生物資源科学概論		情報科学	
					アグリサイエンス概論			
	後期	2	C	現代教職論			日本国憲法	ブランド創生フィールドワーク
		2	D	教育制度論			スポーツ実技 I	
2年次	前期	2	E	発達と学習	植物生態学	道德教育の理論と方法	英語IVA	
		2	F	特別支援教育概論	アグリビジネス・マーケティング論			
		3	QR	教育方法・ICT活用論	農業と環境			
					植物形態学			
					植物生理学			
	後期	2	G	教育課程論	フラワー園芸学 I		英語IVB	
		3	IJ	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	フラワー装飾学			
		3	M	教育相談				
3年次	前期			職業指導	果樹園芸学			アグリサイエンス実習 I
		1	A	農業科教育法 I				
	後期	3	LN	生徒指導・進路指導論	アグリブランド生産学			アグリサイエンス実習 II
				職業指導	地域・ブランド農畜産物論			
		1	A	農業科教育法 II				
4年次	前期	4		教育実習事前・事後指導				
		4		教育実習 II				
	後期	4		教職実践演習（中・高）				

様式第7号ウ

＜食品開発学科＞（認定課程：中一種免（理科））

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	＜教科に関する科目＞ ・食品開発基礎理論IIによる有機化学や生物化学についての基礎力の充実と養成 ＜教職に関する科目＞ ・基礎能力の習得（教職課程に必要な知識・学習方法・技術等を学部・学科カリキュラムとの関連で習得） ・スタディ・スキルの養成
	後期	＜教科に関する科目＞ ・専門科目による物理、化学、生物の理科教育従事者としての基礎力の充実と養成 ＜教職に関する科目＞ ・教職の意義・教員の職務内容・学校教育の内容と課題の理解 ・教育の理念・歴史・思想の理解 ・生徒の心身発達や学習課程の理解
2年次	前期	＜教科に関する科目＞ ・食品機能化学および食品機能化学実験による高分子化学に基づく有機化学についての基礎力の充実と応用力の養成 ＜教職に関する科目＞ ・教育制度の理解 ・教育方法の理論の理解と実践
	後期	＜教科に関する科目＞ ・食品分析学および食品分析学実験による化学分析や機器分析技術を介した化学についての基礎力の充実と応用力の養成 ＜教職に関する科目＞ ・教育の社会的意義や課題の理解 ・特別活動の理論と方法の理解と習得 ・教育相談の理論および方法の理解と習得 ・理科教育法の習得（学習指導の基礎理論・技術、学習指導の応用・技能）
3年次	前期	＜教科に関する科目＞ ・専門科目による高度な科学技術教育を通して、理科教育の従事者となるべく応用力・実践力を高める ＜教職に関する科目＞ ・理科教育法の習得（学習指導の基礎理論・技術、学習指導の応用・技能）
	後期	＜教科に関する科目＞ ・専門科目による高度な科学技術教育を通して、理科教育の従事者となるべく応用力・実践力を高める ＜教職に関する科目＞ ・教育実習の事前指導（教育実習の意義・内容の理解および演習・準備） ・理科教育法の習得（学習指導の理論と技術の実践演習、学習指導の理論と技術の実践開発）
4年次	前期	＜教科に関する科目＞ ・卒業研究を通じた理科教育従事者としての理念の確認および実践力の養成 ＜教職に関する科目＞ ・教育実習の事前指導（教育実習校からの指導・直前準備） ・教育実習 ・教育実習事後指導
	後期	＜教科に関する科目＞ ・卒業研究を通じた理科教育従事者としての理念の確認および実践力の養成 ＜教職に関する科目＞ ・「履修カルテ」に基づく教職課程の統括的指導（自己課題の認識・知識や技術の補完・教員の使命や資質能力の確認と補完）

様式第7号ウ（教諭）

＜食品開発学科＞（認定課程：中一種免（理科））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等			教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第6条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	前期	2	B	教育原論	生物学概論Ⅰ		スポーツ科学	食品開発概論
					食品開発基礎理論Ⅰ		スポーツ実技Ⅰ	
					食品開発基礎理論Ⅱ		情報科学	
	後期	2	C	現代教職論	生物学概論Ⅱ		日本国憲法	食品開発基礎実験
		2	D	教育制度論				食品科学
2年次	前期	2	E	発達と学習	物理学概論Ⅰ		英語ⅣA	食品資源利用学
		2	F	特別支援教育概論	化学概論Ⅰ			食品資源利用学実験
		3	H	道德教育の理論と方法	食品機能化学			食品加工学
		3	QR	教育方法・ICT活用論	食品機能化学実験			食品加工学実験
	後期	2	G	教育課程論	物理学概論Ⅱ		英語ⅣB	食品開発演習Ⅰ
		3	IJ	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	化学概論Ⅱ			食品衛生学
		3	M	教育相談	生物学実験			
		1	A	理科教育法Ⅰ	食品分析学			
					食品栄養学			
					食品分析学実験			
					食品栄養学実験			
3年次	前期	1	A	理科教育法Ⅱ	食品微生物学			食品開発実習Ⅰ
								食品開発実習Ⅱ
	後期	3	LN	生徒指導・進路指導論	化学実験			食品開発演習Ⅱ
		1	A	理科教育法Ⅲ				
		1	A	理科教育法Ⅳ				
4年次	前期	4		教育実習事前・事後指導	物理学実験			食品開発研究Ⅰ
		4		教育実習Ⅰ	地学概論Ⅰ			
	後期	4		教職実践演習（中・高）	地学概論Ⅱ			食品開発研究Ⅱ
					地学実験			

様式第7号ウ

＜食品開発学科＞（認定課程：高一種免（理科））

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	＜教科に関する科目＞ ・食品開発基礎理論IIによる有機化学や生物化学についての基礎力の充実と養成 ・食品開発基礎理論IIIによる物理化学や生物化学についての基礎力の充実と養成 ＜教職に関する科目＞ ・基礎能力の習得（教職課程に必要な知識・学習方法・技術等を学部・学科カリキュラムとの関連で習得） ・スタディ・スキルの養成
	後期	＜教科に関する科目＞ ・専門科目による物理、化学、生物の理科教育従事者としての基礎力の充実と養成 ＜教職に関する科目＞ ・教職の意義・教員の職務内容・学校教育の内容と課題の理解 ・教育の理念・歴史・思想の理解 ・生徒の心身発達や学習課程の理解
2年次	前期	＜教科に関する科目＞ ・食品機能化学および食品機能化学実験による高分子化学に基づく有機化学についての基礎力の充実と応用力の養成 ＜教職に関する科目＞ ・教育制度の理解 ・教育方法の理論の理解と実践
	後期	＜教科に関する科目＞ ・食品分析学および食品分析学実験による化学分析や機器分析技術を介した化学についての基礎力の充実と応用力の養成 ・食品栄養学および食品栄養学実験による栄養と健康との関わりに基づいた生物化学についての基礎力の充実と応用力の養成 ＜教職に関する科目＞ ・教育の社会的意義や課題の理解 ・特別活動の理論と方法の理解と習得 ・教育相談の理論および方法の理解と習得 ・理科教育法の習得（学習指導の基礎理論・技術、学習指導の応用・技能）
3年次	前期	＜教科に関する科目＞ ・食品微生物学による微生物制御と微生物利用を介した生物についての基礎力の充実と養成 ＜教職に関する科目＞ ・理科教育法の習得（学習指導の基礎理論・技術、学習指導の応用・技能）
	後期	＜教科に関する科目＞ ・専門科目による高度な科学技術教育を通して、理科教育の従事者となるべく応用力・実践力を高める ＜教職に関する科目＞ ・教育実習の事前指導（教育実習の意義・内容の理解および演習・準備） ・理科教育法の習得（学習指導の理論と技術の実践演習、学習指導の理論と技術の実践開発）
4年次	前期	＜教科に関する科目＞ ・卒業研究を通じた理科教育従事者としての理念の確認および実践力の養成 ＜教職に関する科目＞ ・教育実習の事前指導（教育実習校からの指導・直前準備） ・教育実習 ・教育実習事後指導
	後期	＜教科に関する科目＞ ・卒業研究を通じた理科教育従事者としての理念の確認および実践力の養成 ＜教職に関する科目＞ ・「履修カルテ」に基づく教職課程の統括的指導（自己課題の認識・知識や技術の補完・教員の使命や資質能力の確認と補完）

様式第7号ウ（教諭）

＜食品開発学科＞（認定課程：高一種免（理科））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等			教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	前期	2	B	教育原論	生物学概論Ⅰ		スポーツ科学	食品開発概論
					食品開発基礎理論Ⅰ		スポーツ実技Ⅰ	
					食品開発基礎理論Ⅱ		情報科学	
	後期	2	C	現代教職論	生物学概論Ⅱ		日本国憲法	食品開発基礎実験
		2	D	教育制度論				食品科学
2年次	前期	2	E	発達と学習	物理学概論Ⅰ	道德教育の理論と方法	英語ⅣA	食品資源利用学
		2	F	特別支援教育概論	化学概論Ⅰ			食品資源利用学実験
		3	QR	教育方法・ICT活用論	食品機能化学			食品加工学
					食品機能化学実験			食品加工学実験
	後期	2	G	教育課程論	物理学概論Ⅱ		英語ⅣB	食品開発演習Ⅰ
		3	IJ	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	化学概論Ⅱ			食品衛生学
		3	M	教育相談	生物学実験			
		1	A	理科教育法Ⅰ	食品分析学			
					食品栄養学			
					食品分析学実験			
					食品栄養学実験			
3年次	前期	1	A	理科教育法Ⅱ	食品微生物学			食品開発実習Ⅰ
								食品開発実習Ⅱ
	後期	3	LN	生徒指導・進路指導論	化学実験			食品開発演習Ⅱ
		1	A	理科教育法Ⅲ				
		1	A	理科教育法Ⅳ				
4年次	前期	4		教育実習事前・事後指導	物理学実験			
		4		教育実習Ⅱ	地学概論Ⅰ			
	後期	4		教職実践演習（中・高）	地学概論Ⅱ			
					地学実験			

様式第7号ウ

＜国際共生学科＞（認定課程：中一種免（社会））

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	＜教科に関する科目＞ 教養教育科目をとおして、教科教育に必要な歴史と哲学の基礎的な知識を修得する。 ＜教職に関する科目＞ 教育原論で教育の意義・目的、児童期・生徒期・青年期の成長・発達、日本の教育の歴史、教育に関する基本的事項を理解する。
	後期	＜教科に関する科目＞ 教養教育科目で歴史と哲学についてさらに学修を深める。さらに、専門教育科目の「国際関係論」と「国際共生社会調査論」では、国際関係に関する知識と社会調査の技法をそれぞれ学修する。 ＜教職に関する科目＞ 教職の意義、これからの時代に求められる教員の資質・能力、新しい教育課題と教員の役割等について検討することで、教職観を構築し教職に就く意識を高める。また、日本の教育制度の基本理念、学習指導要領の変遷、国・地方教育行政の基本理念等について理解する。
2年次	前期	＜教科に関する科目＞ 主に概論科目をとおして外国史、地理学、法律学・政治学、社会学・経済学に関して、社会科教員として必要な専門知識を修得する。 ＜教職に関する科目＞ 教育方法の理論と歴史、基本原理、授業を構成する要素、主体的・対話的で深い学びの指導法、情報機器の活用等について学修し、学習指導案に反映できるようにする。また、生徒の心身の発達及び学習過程についての知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた指導を理解し、生徒の個別的教育ニーズに対して組織的に対応していくための支援方法を学修する。さらに、道徳教育の歴史・目標・内容及び指導法等を検討し、道徳教育を実践できる能力を育成する。
	後期	＜教科に関する科目＞ 主に概論科目をとおして、外国史、地理学、法律学・政治学、社会学・経済学、さらに宗教学に関して、社会科教員として必要な専門知識を修得する。 ＜教職に関する科目＞ 教育課程の基本的概念を理解し、学習指導要領の改訂の意義と授業改善の在り方、授業実践とカリキュラムマネジメントとの関連を理解する。また、特別活動と総合的な学習の時間の意義・目標・内容、各教科・道徳との関連について理解し、指導に必要な能力を身に付ける。生徒指導に関しては、生徒の発達状況における心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を学修する。
3年次	前期	＜教科に関する科目＞ 主に詳論科目をとおして、日本史、地理学・地誌、社会学・経済学、宗教学・倫理学に関する専門知識を修得し、社会科教員の持つべき知識の拡充を図る。 ＜教職に関する科目＞ 生徒が主体的に学び、生きる力を身に付けるためにはどのような指導方法や単元構造が必要なのか具体的な方法や事例をあげて説明できる能力を修得する。また、学習指導案作成の意義を理解し、授業の流れを明確にして指導案を作成する。
	後期	＜教科に関する科目＞ 主に詳論科目をとおして、地理学・地誌、経済学、宗教学・倫理学に関する専門知識を修得し、社会科教員の持つべき知識の拡充を図る。 ＜教職に関する科目＞ 社会科指導に関してさらに深く学修するとともに、いじめや不登校問題に加えて、インターネットや性、児童虐待などの問題に対する理解を深め、生徒指導に必要な生徒の心身の発達過程・特徴について学修する。
4年次	前期	＜教職に関する科目＞ 教職課程を履修する学生が教育実習に参加するための基本要件を確認して、実習学生としてその責任を十分に果たし、実りある実習を実践できるように中学校教員としての基本を習得する。実際に教育実習を行うことにより、授業や学級経営、学校行事等の実際を体験的に学修し、教育実践の場への理解と教科指導・生徒指導等の実践的な指導力を身につける。教育実習後に自身の経験や実践を振り返り、目標に到達できたのかを評価する。
	後期	＜教職に関する科目＞ 教職履修カルテにより教職課程の履修状況を把握し、教職の意義や教員の役割・責任を再確認する。また、教員の具体的な職務内容や学校の実態等についての理解、教科指導や生徒指導等に関する実践的指導力の定着、教員としての資質・能力を確認する。

様式第7号ウ（教諭）

＜国際共生学科＞（認定課程：中一種免（社会））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等			教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第6条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	前期	2	B	教育原論	歴史学入門		スポーツ科学	国際共生学入門
					哲学入門		スポーツ実技Ⅰ	国際共生フィールドワーク入門
							情報科学	
	後期	2	C	現代教職論	日本の歴史		日本国憲法	
		2	D	教育制度論	世界の歴史			
					国際関係論			
					国際共生社会調査論			
2年次	前期				哲学の現在			
		2	E	発達と学習	世界史概説Ⅰ		英語ⅣA	
		2	F	特別支援教育概論	歴史と国際共生			
		3	H	道德教育の理論と方法	文化地理学			
		3	QR	教育方法・ICT活用論	法律学概論（国際法を含む）			
	後期	1	A	社会科・地理歴史科教育法Ⅰ	社会学概論Ⅰ			
		2	G	教育課程論	世界史概説Ⅱ		英語ⅣB	
		3	IJ	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	産業地理学			
		3	M	教育相談	国際協力論			
		1	A	社会科・地理歴史科教育法Ⅱ	国際生物資源法規			
					社会学概論Ⅱ			
					国際貿易論			
3年次	前期	1	A	社会科・公民科教育法Ⅰ	日本史概説			国際共生学ゼミナールⅠ
					人文地理学			
					共生の文化人類学			
					グローバルスタディーズⅠ			
					グローバルスタディーズⅡ			
					共生の社会学			
					生物資源ビジネス論			
					国際経営戦略論			
					倫理学概論Ⅰ			
	後期				宗教社会学Ⅰ			
		3	LN	生徒指導・進路指導論	自然地理学			国際共生学ゼミナールⅡ
		1	A	社会科・公民科教育法Ⅱ	地誌学概論			
					グローバルスタディーズⅣ			
					国際ツーリズム論			
					国際人材マネジメント論			
					起業と共生			
					国際地域ブランド戦略論			
					倫理学概論Ⅱ			
4年次	前期	4		教育実習事前・事後指導				国際共生学研究Ⅰ
		4		教育実習Ⅰ				
	後期	4		教職実践演習（中・高）				国際共生学研究Ⅱ

様式第7号ウ

<国際共生学科> (認定課程: 高一種免(地理歴史))

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<教科に関する科目> 教養教育科目の「歴史学入門」をとおして、教科教育に必要な歴史の基礎的な知識を修得する。 <教職に関する科目> 教育原論で教育の意義・目的、児童期・生徒期・青年期の成長・発達、日本の教育の歴史、教育に関する基本的事項を理解する。
	後期	<教科に関する科目> 教養教育科目の「日本の歴史」と「世界の歴史」で歴史についてさらに深く学修する。 <教職に関する科目> 教職の意義、これからの時代に求められる教員の資質・能力、新しい教育課題と教員の役割等について検討することで、教職観を構築し教職に就く意識を高める。また、日本の教育制度の基本理念、学習指導要領の変遷、国・地方教育行政の基本理念等について理解する。
2年次	前期	<教科に関する科目> 「世界史概説Ⅰ」と「歴史と国際共生」で外国史を、また「文化地理学」で地理学に関する知識を学修し、地理歴史教員として必要な資質を向上させる。 <教職に関する科目> 教育方法の理論と歴史、基本原理、授業を構成する要素、主体的・対話的で深い学びの指導法、情報機器の活用等について学修し、学習指導案に反映できるようにする。また、生徒の心身の発達及び学習過程についての知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた指導を理解し、生徒の個別的教育ニーズに対して組織的に対応していくための支援方法を学修する。さらに、道徳教育の歴史・目標・内容及び指導法等を検討し、道徳教育を実践できる能力を育成する。
	後期	<教科に関する科目> 「世界史概説Ⅱ」で前期に蓄積した外国史に関する知識をさらに深める。また「産業地理学」では産業を視点に地理学を学び、地理学の専門知識を修得する。 <教職に関する科目> 教育課程の基本的概念を理解し、学習指導要領の改訂の意義と授業改善の在り方、授業実践とカリキュラムマネジメントとの関連を理解する。また、特別活動と総合的な学習の時間の意義・目標・内容、各教科・道徳との関連について理解し、指導に必要な能力を身に付ける。生徒指導に関しては、生徒の発達状況における心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識(カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む)を学修する。
3年次	前期	<教科に関する科目> 「日本史概説」で教員として必要な日本史に関する全般的な知識を学修する。また「人文地理学」ではこの分野の概論を学修し、さらに「グローバルスタディーズⅠ・Ⅱ・Ⅲ」では東アジア、東南アジア、中東の地域研究をそれぞれ行い、地誌学に関する知識を豊かにする。 <教職に関する科目> 生徒が主体的に学び、生きる力を身に付けるためにはどのような指導方法や単元構造が必要なのか具体的な方法や事例をあげて説明できる能力を修得する。また、学習指導案作成の意義を理解し、授業の流れを明確にして指導案を作成する。
	後期	<教科に関する科目> 「自然地理学」及び「地誌学概論」では、それぞれの概論的な内容を理解し、教員として必要な資質を向上させる。さらに、「グローバルスタディーズⅣ・Ⅴ・Ⅵ」では、北米、アフリカ、ヨーロッパの地域研究をそれぞれ行い、地誌学に関する知識を豊かにする。 <教職に関する科目> 地理歴史科指導に関してさらに深く学修するとともに、いじめや不登校問題に加えて、インターネットや性、児童虐待などの問題に対する理解を深め、生徒指導に必要な生徒の心身の発達過程・特徴について学修する。
4年次	前期	<教職に関する科目> 教職課程を履修する学生が教育実習に参加するための基本要件を確認して、実習学生としてその責任を十分に果たし、実りある実習を実践できるように高等学校教員としての基本を習得する。実際に教育実習を行うことにより、授業や学級経営、学校行事等の実際を体験的に学修し、教育実践の場への理解と教科指導・生徒指導等の実践的な指導力を身につける。教育実習後に自身の経験や実践を振り返り、目標に到達できたのかを評価する。
	後期	<教職に関する科目> 教職履修カルテにより教職課程の履修状況を把握し、教職の意義や教員の役割・責任を再確認する。また、教員の具体的な職務内容や学校の実態等についての理解、教科指導や生徒指導等に関する実践的指導力の定着、教員としての資質・能力を確認する。

様式第7号ウ（教諭）

＜国際共生学科＞（認定課程：高一種免（地理歴史））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等			教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	前期	2	B	教育原論	歴史学入門		スポーツ科学	国際共生学入門
							スポーツ実技 I	国際共生フィールドワーク入門
							情報科学	
	後期	2	C	現代教職論	日本の歴史		日本国憲法	
		2	D	教育制度論	世界の歴史			
2年次	前期	2	E	発達と学習	世界史概説 I	道德教育の理論と方法	英語IVA	
		2	F	特別支援教育概論	歴史と国際共生			
		3	QR	教育方法・ICT活用論	文化地理学			
		1	A	社会科・地理歴史科教育法 I				
	後期	2	G	教育課程論	世界史概説 II		英語IVB	
		3	IJ	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	産業地理学			
		3	M	教育相談				
		1	A	社会科・地理歴史科教育法 II				
3年次	前期				日本史概説			
					人文地理学			
					共生の文化人類学			
					グローバルスタディーズ I			
					グローバルスタディーズ III			
	後期	3	LN	生徒指導・進路指導論	自然地理学			
					地誌学概論			
					グローバルスタディーズ IV			
4年次	前期	4		教育実習事前・事後指導				
		4		教育実習 II				
	後期	4		教職実践演習（中・高）				

様式第7号ウ

＜国際共生学科＞（認定課程：高一種免（公民））

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	＜教科に関する科目＞ 教養教育科目の「哲学入門」とおして、教科教育に必要な哲学の基礎的な知識を修得する。 ＜教職に関する科目＞ 教育原論で教育の意義・目的、児童期・生徒期・青年期の成長・発達、日本の教育の歴史、教育に関する基本的事項を理解する。
	後期	＜教科に関する科目＞ 教養教育科目の「哲学の現在」で哲学についてさらに深く学修する。さらに、専門教育科目の「国際関係論」と「国際共生社会調査論」では、国際関係に関する知識と社会調査の技法をそれぞれ学修する。 ＜教職に関する科目＞ 教職の意義、これからの時代に求められる教員の資質・能力、新しい教育課題と教員の役割等について検討することで、教職観を構築し教職に就く意識を高める。また、日本の教育制度の基本理念、学習指導要領の変遷、国・地方教育行政の基本理念等について理解する。
2年次	前期	＜教科に関する科目＞ 「法律学概論」と「国際政治論」で法律学・政治学について広く学び、また「社会学概論Ⅰ」と「生物資源マーケティング論」で社会学・経済学に関する知識を学修し、公民科教員として必要な資質を向上させる。 ＜教職に関する科目＞ 教育方法の理論と歴史、基本原理、授業を構成する要素、主体的・対話的で深い学びの指導法、情報機器の活用等について学修し、学習指導案に反映できるようにする。また、生徒の心身の発達及び学習過程についての知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた指導を理解し、生徒の個別的教育ニーズに対して組織的に対応していくための支援方法を学修する。さらに、道德教育の歴史・目標・内容及び指導法等を検討し、道德教育を実践できる能力を育成する。
	後期	＜教科に関する科目＞ 「国際協力論」と「国際生物資源法規」で政治学・法律学の知識、「社会学概論Ⅱ」と「国際貿易論」で社会学・経済学の知識、また、「宗教と国際共生」では宗教学の知識をそれぞれ修得し、公民科教員として必要な資質を向上させる。 ＜教職に関する科目＞ 教育課程の基本的概念を理解し、学習指導要領の改訂の意義と授業改善の在り方、授業実践とカリキュラムマネジメントとの関連を理解する。また、特別活動と総合的な学習の時間の意義・目標・内容、各教科・道德との関連について理解し、指導に必要な能力を身に付ける。生徒指導に関しては、生徒の発達状況における心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を学修する。
3年次	前期	＜教科に関する科目＞ 「共生の社会学」「生物資源ビジネス論」「国際経営戦略論」「生物資源流通論」で社会学・経済学の専門的な知識を学修し、教員として必要な専門性を高める。また「宗教社会学Ⅰ」と「倫理学概論Ⅰ」ではそれぞれの分野の概論を学修し、公民科教員の持つべき知識の拡充を図る。 ＜教職に関する科目＞ 生徒が主体的に学び、生きる力を身に付けるためにはどのような指導方法や単元構造が必要なのか具体的な方法や事例をあげて説明できる能力を修得する。また、学習指導案作成の意義を理解し、授業の流れを明確にして指導案を作成する。
	後期	＜教科に関する科目＞ 「国際ツーリズム論」「国際人材マネジメント論」「企業と共生」「国際地域ブランド戦略論」において経済学におけるそれぞれの詳細的な内容を理解し、公民科教員として必要な資質を向上させる。さらに、「宗教社会学Ⅱ」と「倫理学概論Ⅱ」では概論の内容を理解する。 ＜教職に関する科目＞ 公民科指導に関してさらに深く学修するとともに、いじめや不登校問題に加えて、インターネットや性、児童虐待などの問題に対する理解を深め、生徒指導に必要な生徒の心身の発達過程・特徴について学修する。
4年次	前期	＜教職に関する科目＞ 教職課程を履修する学生が教育実習に参加するための基本要件を確認して、実習学生としてその責任を十分に果たし、実りある実習を実践できるように高等学校教員としての基本を習得する。実際に教育実習を行うことにより、授業や学級経営、学校行事等の実際を体験的に学修し、教育実践の場への理解と教科指導・生徒指導等の実践的な指導力を身につける。教育実習後に自身の経験や実践を振り返り、目標に到達できたのかを評価する。
	後期	＜教職に関する科目＞ 教職履修カルテにより教職課程の履修状況を把握し、教職の意義や教員の役割・責任を再確認する。また、教員の具体的な職務内容や学校の実態等についての理解、教科指導や生徒指導等に関する実践的指導力の定着、教員としての資質・能力を確認する。

様式第7号ウ（教諭）

＜国際共生学科＞（認定課程：高一種免（公民））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等			教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第6条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	前期	2	B	教育原論	哲学入門		スポーツ科学	
					心理学入門		スポーツ実技Ⅰ	
							情報科学	
	後期	2	C	現代教職論	国際関係論		日本国憲法	
		2	D	教育制度論	国際共生社会調査論			
					哲学の現在			
2年次	前期	2	E	発達と学習	法律学概論（国際法を含む）	道德教育の理論と方法	英語ⅣA	
		2	F	特別支援教育概論	社会学概論Ⅰ			
		3	QR	教育方法・ICT活用論				
	後期	2	G	教育課程論	国際協力論		英語ⅣB	
		3	IJ	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	国際生物資源法規			
		3	M	教育相談	社会学概論Ⅱ			
3年次	前期	1	A	社会科・公民科教育法Ⅰ	共生の社会学			国際共生学ゼミナールⅠ
					生物資源ビジネス論			
					国際経営戦略論			
					倫理学概論Ⅰ			
					宗教社会学Ⅰ			
	後期	3	LN	生徒指導・進路指導論	国際ツーリズム論			国際共生学ゼミナールⅡ
		1	A	社会科・公民科教育法Ⅱ	国際人材マネジメント論			
					起業と共生			
					国際地域ブランド戦略論			
					倫理学概論Ⅱ			
					宗教社会学Ⅱ			
4年次	前期	4		教育実習事前・事後指導				国際共生学研究Ⅰ
		4		教育実習Ⅱ				
	後期	4		教職実践演習（中・高）				国際共生学研究Ⅱ

様式第7号ウ

＜獣医保健看護学科＞（認定課程：中一種免（理科））

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	＜教科に関する科目＞ ・細胞の基本的な構造と分子レベルから見た細胞、組織、個体の機能を理解する。 ・犬と猫を始めとする動物の各臓器における形態の差を理解する。 ＜教職に関する科目＞ ・教育の基本概念、本質、そして目標を理解する。 ・我が国における教育に関する歴史、様々な思想に対する現代社会の教育と学校の役割を理解する。 ・スポーツ活動が果たす意義と効用の多面性、健康保持と増進のメカニズムを理解する。
	後期	＜教科に関する科目＞ ・犬と猫を始めとする動物の各臓器における生理学的機能と恒常性を理解する。 ・細胞機能を分子レベルで捉え、遺伝情報、エネルギー産生、糖質やタンパク質の代謝、生命維持の仕組みを理解する。 ＜教職に関する科目＞ ・教職の意義、求められる教員の資質、能力、役割、任用と服務、新しい教育課題と教員の役割を理解する。 ・我が国の教育制度の理念、学習指導要領の変遷、教育制度の課題を理解し、今後の教育制度の在り方を考えられるようになる。 ・憲法がもつ規範、制定経緯、内容（主として人権条項）、生起する様々な社会的問題を理解する。
2年次	前期	＜教科に関する科目＞ ・中学校や高等学校で学ぶ力学と熱力学に関する指導方法を身につける。 ・ウィルス、細菌、真菌の構造、増殖、感染を学び、これらに対する生体の免疫機能の詳細を理解する。 ・コンピュータの基本的な仕組み、情報化社会の基礎知識、初歩的なプログラミングを理解する。 ・ネイティブスピーカーが使う基本的な会話表現の基礎を理解する。 ＜教職に関する科目＞ ・教育方法の基礎的理論と具体的な方法の在り方を理解し、話法、板書、情報機器を活用した授業展開の基礎を身に付ける。 ・乳幼児、児童及び生徒の心身、情動、社会性の発達の課程、これらの学校制度における影響を理解する。 ・特別な支援を必要とする児童、生徒の実態を把握し、指導方法を理解する。 ・道德教育の意義、目標、内容について理解し、基本的な学習指導案作成の知識と技能を身に付ける。
	後期	＜教科に関する科目＞ ・5大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学び、ライフステージや疾患ごとに各種療法食の特色や給餌方法などを理解する。 ・臨床検査の原理や方法、意義について学び、検体や測定機器の正しい扱い方について理解する。 ・野生動物、特に哺乳類を中心とした種・群集・個体群・個体に関するヒエラルキーや、自然選択や適応進化、個体群における繁殖様式や社会構造、種間・種内競合、被捕食、共生関係について理解する。 ・生物多様性の実態、環境の変遷と人為的改変がもたらす様々な生物への影響について、進化生物学のおよび保全生物学的見地から理解する。 ・ネイティブスピーカーが使う基本的な会話表現の理解をさらに深める。 ＜教職に関する科目＞ ・我が国における理科教育の歴史的変遷、理科教育の現状や重要性、そして理科授業と学習指導要領、教科書との関わりを理解する。 ・教育課程の基本概念、学習指導要領の改訂の意義と授業改善の在り方、授業実践とカリキュラムマネジメントとの関連を理解する。 ・学級活動、生徒会活動、学校行事の特質について、さらに意義、目標、内容、道德との関連について理解する。 ・幼児、児童、生徒の発達の状況や心理的特質、さらに教育的課題を適切に捉え、支援に必要な基礎的知識、理論技法の基礎を身に付ける。
	前期	＜教科に関する科目＞ ・各種臨床検査項目を実際に測定し、検体や測定機器の正しい扱い方、実験結果の解釈を理解する。 ＜教職に関する科目＞ ・学習指導要領の理科教育目標と学習指導案の必要事項を熟知、学習理論を基盤とする授業のデザインと学習指導案を作成することができる。

3年次	後期	<教科に関する科目> ・46億年における地球の成り立ちと、約40億年の生命の歴史を理解し、現在の地球構成物と地球環境の原型が築かれた諸過程を理解する。 ・岩石鉱物、堆積物粒子、大型化石、微化石、地学現象を野外実習を観察、測定することで、地球表層部の構造や変化過程を推理し、それらを記録する基礎的技術を習得する。 <教職に関する科目> ・中学校理科教育の特性と実験項目を熟知し、観察と実験授業における安全管理についての基本的事項を修得する。 ・中学校理科教育の各単元について小学校からの系統性を意識し、各単元で教授すべきことを理解し、物の観察と実験の授業の安全管理、ICT機器を用いた効果的な観察と実験の授業が実践できる。 ・児童と生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図り、社会的資質や行動力を高める生徒指導や進路指導を理解し、他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進め、ガイダンスとカウンセリングに必要な知識や素養を身に付ける。
4年次	前期	<教職に関する科目> ・教育実習生として遵守すべき事項、実習先での実習学生としてその責任を十分に果たし、実りある実習を実践できるように、積極的かつ意欲的に教育実習に取り組むことができる。 ・教育実習校における実習を通して、生徒の実態と課題、学級担任と教科指導等の補助的な役割を担い、学習指導に必要な技術を身に付け、授業実践を行うことができる。
	後期	<教職に関する科目> ・教職の意義や教員の役割と責任、職務内容に関する知識、生徒理解や学級経営等に関する資質と能力、教科内容等の指導力に関する資質と能力を修得する。

様式第7号ウ（教諭）

＜獣医保健看護学科＞（認定課程：中一種免（理科））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等			教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第6条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	前期	2	B	教育原論	生物学概論Ⅰ		スポーツ科学	獣医保健看護学概論
					動物形態機能学Ⅰ		スポーツ実技Ⅰ	愛玩動物学
							情報科学	
	後期	2	C	現代教職論	生物学概論Ⅱ		日本国憲法	
		2	D	教育制度論	動物生理化学			
					分子生物学			
					動物形態機能学Ⅱ			
2年次	前期	2	E	発達と学習	物理学概論Ⅰ		英語ⅣA	動物品種論
		2	F	特別支援教育概論	化学概論Ⅰ			
		3	H	道德教育の理論と方法	動物薬理学			
		3	QR	教育方法・ICT活用論	動物栄養学			
					動物微生物学			
					動物繁殖学			
					動物免疫学			
	後期	2	G	教育課程論	物理学概論Ⅱ		英語ⅣB	動物行動学
		1	A	理科教育法Ⅰ	化学概論Ⅱ			公衆衛生学
					生物学実験			
					動物臨床検査学			
3年次	前期	1	A	理科教育法Ⅱ	動物臨床検査学実習			実験動物学
								動物臨床薬理学
	後期	3	IJ	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	化学実験			人と動物の関係学
		3	LN	生徒指導・進路指導論				
		3	M	教育相談				
		1	A	理科教育法Ⅲ				
		1	A	理科教育法Ⅳ				
4年次	前期	4		教育実習事前・事後指導	物理学実験			動物保健看護学演習Ⅰ・Ⅱ
		4		教育実習Ⅰ	地学概論Ⅰ			獣医保健看護学研究Ⅰ
	後期	4		教職実践演習（中・高）	地学概論Ⅱ			動物保健看護学演習Ⅲ
					地学実験			獣医保健看護学研究Ⅱ

様式第7号ウ

＜獣医保健看護学科＞（認定課程：高一種免（理科））

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	＜教科に関する科目＞ ・一般生物での遺伝子、分子、細胞、組織、器官での構造や機能上の相違と共通性を理解する。 ・犬と猫を始めとする動物の各臓器における形態の差を理解する。 ＜教職に関する科目＞ ・教育の基本概念、本質、そして目標を理解する。 ・我が国における教育に関する歴史、様々な思想に対する現代社会の教育と学校の役割を理解する。 ・スポーツ活動が果たす意義と効用の多面性、健康保持と増進のメカニズムを理解する。
	後期	＜教科に関する科目＞ ・犬と猫を始めとする動物の各臓器における生理学的機能と恒常性を理解する。 ・生物学の基本であるDNA、遺伝子発現、バイオテクノロジー、タンパク質の構造、細胞小器官の役割、代謝などについて、教える視点をもって理解する。 ・細胞機能を分子レベルで捉え、遺伝情報、エネルギー産生、糖質やタンパク質の代謝、生命維持の仕組みを理解する。 ＜教職に関する科目＞ ・教職の意義、求められる教員の資質、能力、役割、任用と服務、新しい教育課題と教員の役割を理解する。 ・我が国の教育制度の理念、学習指導要領の変遷、教育制度の課題を理解し、今後の教育制度の在り方を考えられるようになる。 ・憲法がもつ規範、制定経緯、内容（主として人権条項）、生起する様々な社会的問題を理解する。
2年次	前期	＜教科に関する科目＞ ・ウイルス、細菌、真菌の構造、増殖、感染を学び、これらに対する生体の免疫機能の詳細を理解する。 ・薬物の生体内への吸収、各臓器や組織での薬効発現、代謝のメカニズムを理解する。 ・食事や食品、その成分である栄養素がどのように生体で利用され、また影響を与えるのか理解する。 ・動物における受精や妊娠のメカニズム、不妊症や生殖器官疾患とその治療を理解する。 ・コンピュータの基本的な仕組み、情報化社会の基礎知識、初歩的なプログラミングを理解する。 ・ネイティブスピーカーが使う基本的な会話表現の基礎を理解する。 ＜教職に関する科目＞ ・教育方法の基礎的理論と具体的な方法の在り方を理解し、話法、板書、情報機器を活用した授業展開の基礎を身に付ける。 ・乳幼児、児童及び生徒の心身、情動、社会性の発達と課程、これらの学校制度における影響を理解する。 ・特別な支援を必要とする児童、生徒の実態を把握し、指導方法を理解する。
	後期	＜教科に関する科目＞ ・5大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学び、ライフステージや疾患ごとに各種療法食の特色や給餌方法を理解する。 ・臨床検査の原理や方法、意義について学び、検体や測定機器の正しい扱い方について理解する。 ・野生動物、特に哺乳類を中心とした種・群集・個体群・個体に関するヒエラルキーや、自然選択や適応進化、個体群における繁殖様式や社会構造、種間・種内競合、被捕食、共生関係について理解する。 ・生物多様性の実態、環境の変遷と人為的変化がもたらす様々な生物への影響について、進化生物学および保全生物学的見地から理解する。 ・ネイティブスピーカーが使う基本的な会話表現の理解をさらに深める。 ＜教職に関する科目＞ ・我が国における理科教育の歴史的変遷、理科教育の現状や重要性、そして理科授業と学習指導要領、教科書との関わりを理解する。 ・教育課程の基本的概念、学習指導要領の改訂の意義と授業改善の在り方、授業実践とカリキュラムマネジメントとの関連を理解する。 ・学級活動、生徒会活動、学校行事の特質について、さらに意義、目標、内容、道徳との関連について理解する。 ・幼児、児童、生徒の発達の状況や心理的特質、さらに教育的課題を適切に捉え、支援に必要な基礎的知識、理論技法の基礎を身に付ける。
3年次	前期	＜教科に関する科目＞ ・各種臨床検査項目を実際に測定し、検体や測定機器の正しい扱い方、実験結果の解釈を理解する。 ＜教職に関する科目＞ ・学習指導要領の理科教育目標と学習指導案の必要事項を熟知、学習理論を基盤とする授業のデザインと学習指導案を作成することができる。
	後期	＜教職に関する科目＞ ・児童と生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図り、社会的資質や行動力を高める生徒指導・進路指導を理解し、他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進め、ガイダンスとカウンセリングに必要な知識や素養を身に付ける。

4年次	前期	<教職に関する科目> ・教育実習生として遵守すべき事項、実習先での実習学生としてその責任を十分に果たし、実りある実習を実践できるように、積極的かつ意欲的に教育実習に取り組むことができる。 ・教育実習校における実習を通して、生徒の実態と課題、学級担任と教科指導等の補助的な役割を担い、学習指導に必要な技術を身に付け、授業実践を行うことができる。
	後期	<教職に関する科目> ・教職の意義や教員の役割と責任、職務内容に関する知識、生徒理解や学級経営等に関する資質と能力、教科内容等の指導力に関する資質と能力を修得する。

様式第7号ウ（教諭）

＜獣医保健看護学科＞（認定課程：高一種免（理科））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等			教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第6条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	前期	2	B	教育原論	生物学概論Ⅰ		スポーツ科学	獣医保健看護学概論
					動物形態機能学Ⅰ		スポーツ実技Ⅰ	愛玩動物学
							情報科学	
	後期	2	C	現代教職論	生物学概論Ⅱ		日本国憲法	
		2	D	教育制度論	動物生理化学			
					分子生物学			
					動物形態機能学Ⅱ			
2年次	前期	2	E	発達と学習	物理学概論Ⅰ	道德教育の理論と方法	英語ⅣA	動物品種論
		2	F	特別支援教育概論	化学概論Ⅰ			
		3	QR	教育方法・ICT活用論	動物薬理学			
					動物栄養学			
					動物微生物学			
					動物繁殖学			
					動物免疫学			
	後期	2	G	教育課程論	物理学概論Ⅱ		英語ⅣB	動物行動学
		3	IJ	理科教育法Ⅰ	化学概論Ⅱ			公衆衛生学
		3	M		生物学実験			
		1	A		動物臨床検査学			
3年次	前期	1	A	理科教育法Ⅱ	動物臨床検査学実習			実験動物学
								動物臨床薬理学
	後期	3	IJ	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	化学実験			人と動物の関係学
		3	LN	生徒指導・進路指導論				
		3	M	教育相談				
		1	A	理科教育法Ⅲ				
		1	A	理科教育法Ⅳ				
4年次	前期	4		教育実習事前・事後指導	物理学実験			動物保健看護学演習Ⅰ・Ⅱ
		4		教育実習Ⅱ	地学概論Ⅰ			獣医保健看護学研究Ⅰ
	後期	4		教職実践演習（中・高）	地学概論Ⅱ			動物保健看護学演習Ⅲ
					地学実験			獣医保健看護学研究Ⅱ

様式第7号ウ

＜教育学科＞（認定課程：特支一種免（知・肢・病））

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	＜教科（領域）に関する専門的事項＞ 東洋及び西洋、日本の歴史に関する基礎的な素養を身につけ、社会科教育の従事者としての基礎力を養成する ＜教育の基礎的理解に関する科目等＞ 教職の意義・教員の職務内容・学校教育の内容と課題の理解 基礎能力の習得（教職課程に必要な知識・学習方法・技術等を学部・学科カリキュラムとの関連で習得） ＜特別支援教育に関する科目＞ 特別支援教育の対象となる障害のある幼児児童生徒や理念・歴史・制度等に関する理解 特別ニーズ教育の原理と理念・歴史・思想の理解
	後期	＜教科（領域）に関する専門的事項＞ 日本史講究、東洋史講究、西洋史講究より、歴史学の方法と役割を学び社会科教育の従事者としての基礎力を養成する ＜教育の基礎的理解に関する科目等＞ 教育の理念・歴史・思想の理解 教育方法及びICT（情報通信技術）の活用に関する理論の理解と実践 ＜特別支援教育に関する科目＞ 発達障害児の障害特性や支援に係る理念・方法の理解と習得
2年次	前期	＜教科（領域）に関する専門的事項＞ 哲学及び倫理・経済についての基礎力の充実と養成をはかる 地理学概論及び地誌学より、地理に関する基礎的素養を養う ＜教育の基礎的理解に関する科目等＞ 生徒の心身発達や学習課程の理解 生徒指導・進路指導の理論と方法の理解と習得 特別活動及び総合的な学習の時間に関する理論と方法の習得 特別支援教育に関する方法の理解 社会科教育の習得（学習指導の基礎理論・技術、学習指導の応用・技能） ＜特別支援教育に関する科目＞ 知的障害児の認知特性、発達特性に基づいた教育課程、カリキュラムマネジメント、指導法等に関する理解と習得 知的障害に関する心理・生理・病理的特徴の理解 国際的な特別ニーズ教育の教育制度や動向の理解と指導方法の理解と習得 視覚障害に関する心理・生理・病理的特徴の理解及び教育課程編成や指導方法の理解と習得 聴覚障害に関する心理・生理・病理的特徴の理解及び教育課程編成や指導方法の理解と習得
	後期	＜教科（領域）に関する専門的事項＞ 哲学・倫理学・政治学に関する基礎的な素養を身につける 地理学詳論より、地理に関する基礎力・応用力の充実と養成をはかる ＜教育の基礎的理解に関する科目等＞ 教育制度の理解 教育課程の理解 教育相談の理論及び方法の理解と習得 社会科教育の習得（学習指導の理論と技術の実践演習、学習指導の理論と技術の実践開発） ＜特別支援教育に関する科目＞ 肢体不自由児の認知特性、発達特性に基づいた教育課程、カリキュラムマネジメント、指導法等に関する理解と習得 病弱児の認知特性、発達特性に基づいた教育課程、カリキュラムマネジメント、指導法等に関する理解と習得 肢体不自由に関する心理・生理・病理的特徴の理解 病弱に関する心理・生理・病理的特徴の理解 特別支援学校、特別支援学級、通級による指導等の教育課程編成の理論及び方法の理解と習得、児童生徒の発達段階や心理特性、障害の状態・特性・生理病理的特徴や地域および学校の実態に即した教育課程編成の理論及び方法の理解と習得 発達障害に関する心理・生理・病理的特徴の理解と習得

3年次	前期	<教科(領域)に関する専門的事項> ヨーロッパの教育思想、アメリカの教育より、西洋史についての基礎力・応用力の養成をはかる 教育行政論による、政治・経済に関する基礎力の養成 <教育の基礎的理解に関する科目等> 教育の社会的意義や課題の理解 道徳教育に関する方法及び理論の理解と習得 <特別支援教育に関する科目> 特別支援教育実践方法の習得
	後期	<教科(領域)に関する専門的事項> ヨーロッパの教育制度、国際理解教育論より、西洋史についての基礎力・応用力の要請をはかる 教育経営論による、政治・経済に関する基礎力の養成 <教育の基礎的理解に関する科目等> 教育実習の事前指導 <特別支援教育に関する科目> 教育実習(特別支援学校)の事前指導(大学での指導)
4年次	前期	<教科(領域)に関する専門的事項> 高等教育論、環境教育論、アジアの教育より、様々な主題に関する歴史的・制度的なアプローチの方法を身につけ、社会科教育の従事者としての実践力を養成する <教育の基礎的理解に関する科目等> 教育実習の事前指導 教育実習 教育実習の事後指導 <特別支援教育に関する科目> 教育実習(特別支援学校)の事前指導(教育実習校からの指導・直前準備)
	後期	<教科(領域)に関する専門的事項> 青少年教育論、比較教育論、ジェンダーと教育より、様々な主題に関する歴史的・制度的なアプローチの方法を身につけ、社会科教育の従事者としての実践力を養成する <教育の基礎的理解に関する科目等> 教育実習の事後指導 <特別支援教育に関する科目> 教育実習(特別支援学校)の事後指導

様式第7号ウ (特支)

＜教育学科＞（認定課程：特支一種免（知・肢・病））（基礎免許状となる課程：中一種免（社会））

(2) 具体的な履修カリキュラム

[illegible]

[illegible]